



みずほ証券  
上野広小路支店

# 株式会社インターネットイニシアティブ

(東証一部:3774/米国ナスダック:IIJI)

2013年9月5日  
常務取締役兼CFO 渡井昭久

Ongoing Innovation

## ハイライト

- ◆ 国内トップクラスのIPプロフェッショナル
- ◆ ISPからトータル・ネットワーク・ソリューション・プロバイダーへと戦略的に事業領域を拡大
- ◆ 約8,500社の優良な大中堅企業・官公庁顧客基盤
- ◆ ストック売上の積上げによる継続的な売上・利益成長実績
- ◆ 成長するアウトソーシング・クラウド市場においてのリーディングカンパニー

details to follow

## 国内トップクラスのIPプロフェッショナル

### ◆ 国内ISPの草分け

- ▶ 数々のインターネット周りのネットワークサービスを作り上げ、市場をリード
- ▶ トップレベルのIPエンジニアが集結、拡大
- ▶ 日本で最初にインターネット接続サービスを開始、マーケットを創造

### ◆ 「インターネット技術」がコア・コンピタンス

- ▶ インターネット事業を「ゼロ」から「自分たちの手で」作り上げた実績
- ▶ 日本で最大級のバックボーンを構築、運営
- ▶ 先進的なサービス・プロダクトを開発・提供し、マーケットをリード

### ◆ 情報システム部門に対する高いブランド力

- ▶ インターネット接続サービスから培った顧客との長い信頼関係
- ▶ 信頼性が高く、安定したネットワークサービスの提供、運用
- ▶ 高い顧客満足度、充実したサポート体制

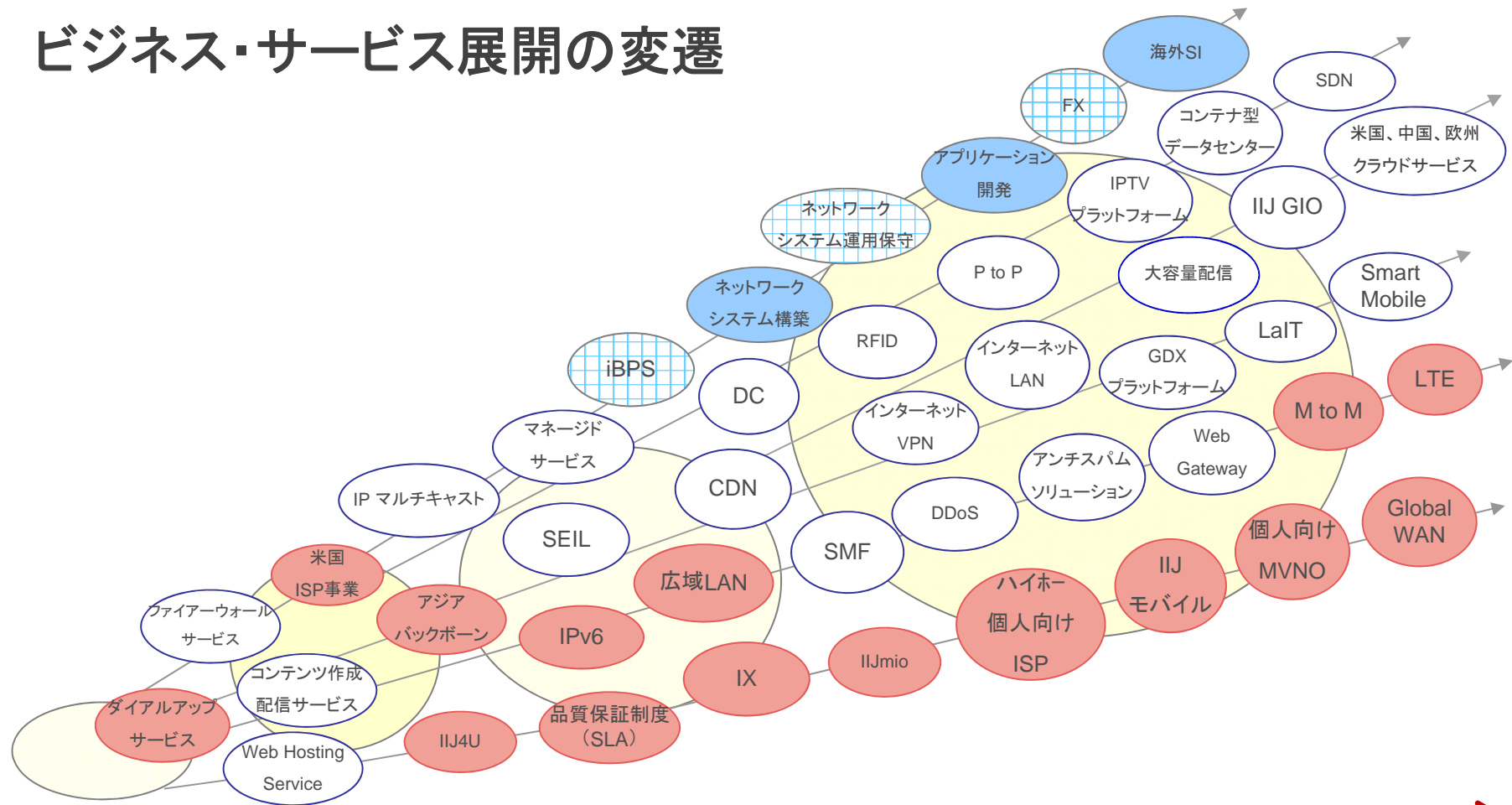
### ◆ 卓越したIP技術力・研究開発

- ▶ IPv6、モバイルIPv6、クラウド等、次世代の情報基盤技術の研究開発への取組み
- ▶ 総務省委託研究への共同参画
- ▶ 世界的なセキュリティ活動団体への参加等  
(「FIRST(ファースト)」や「テレコム・アイザック推進会議」)
- ▶ 迷惑メール対策機関「JEAG(ジエグ)」の立上げ
- ▶ SDNプラットフォームの研究開発を遂行中

会社概要	
設立	1992年12月
従業員数(連結) (2013年6月末現在)	2,269名 (約70% エンジニア)
上場証券取引所	米国ナスダック市場(IJJI) 東証1部(3774)
主要株主 (2013年3月末現在)	NTT(24.5%)、 代表取締役会長 鈴木幸一 (実質保有 6.3%) 伊藤忠商事(株)(5.1%)、 NTTコミュニケーションズ(4.9%)

# IPネットワーク技術でのイニシアティブ

## ビジネス・サービス展開の変遷



1992



IIJグループ

1996



1997



1998



2006



i-revo

2007



2008



2010



2012

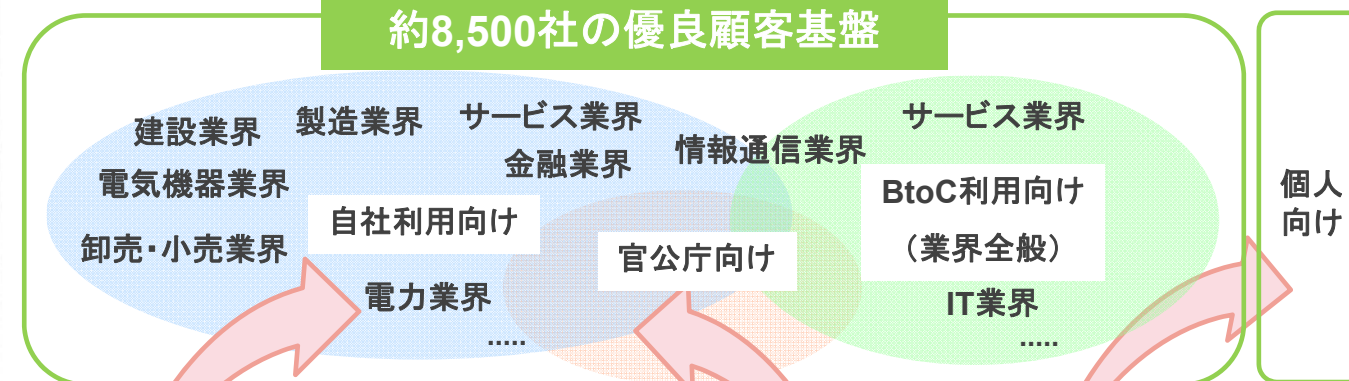


2013



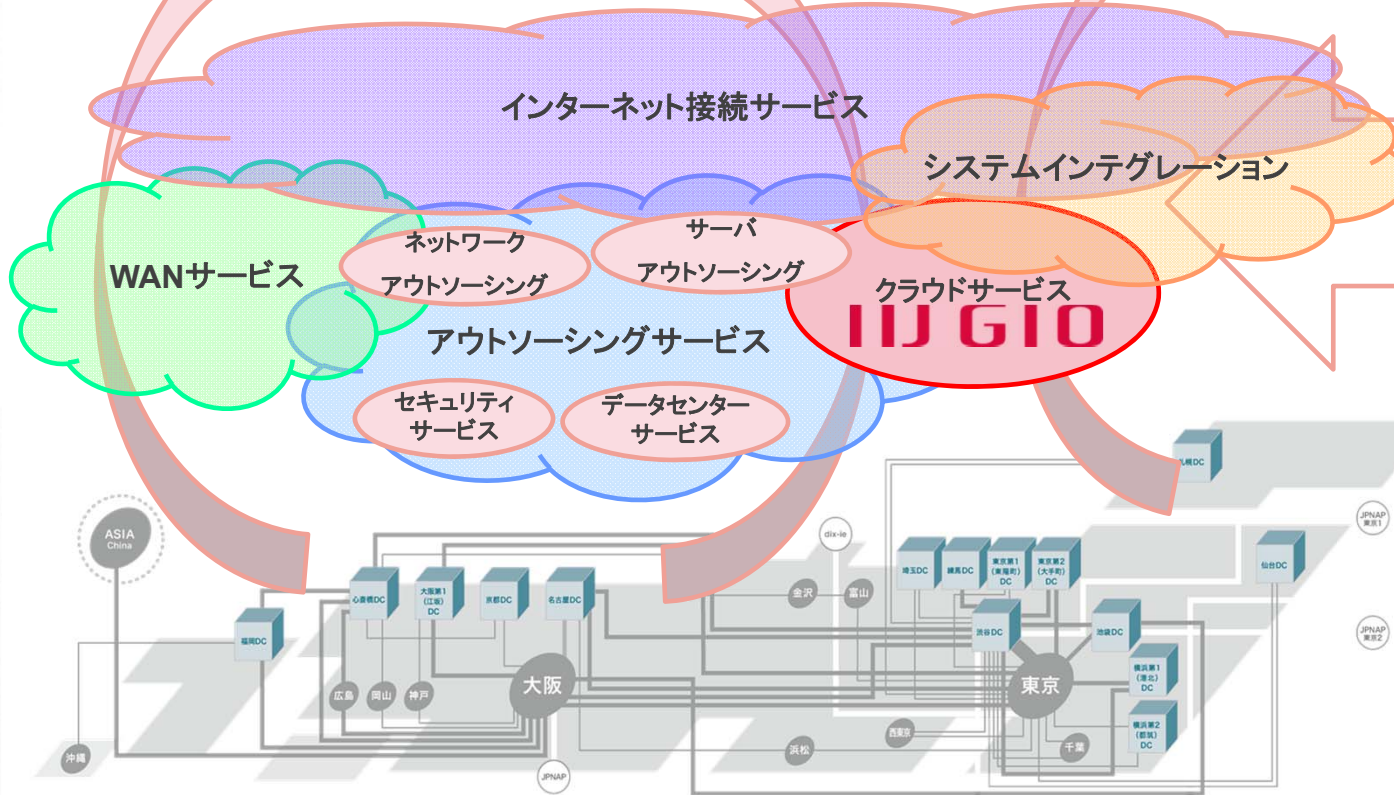
# 事業内容

約8,500社の優良顧客基盤



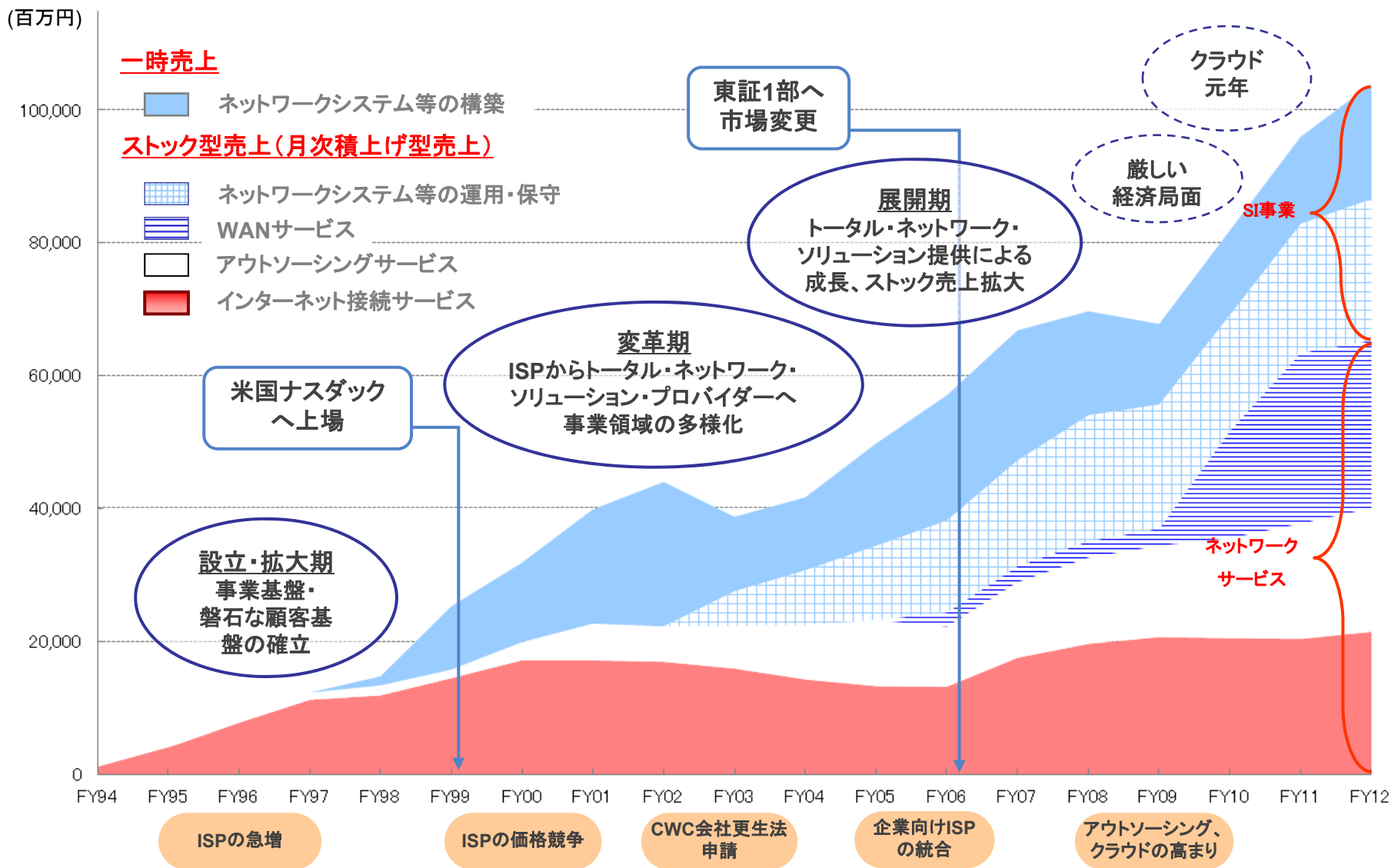
## トータル・ネットワーク・ソリューションの提供

- ・高信頼性インターネット接続サービス
- ・BtoC事業者向け超広帯域通信トラフィックの運用
- ・拠点間を結ぶ専用網WANサービス
- ・出先から社内に安心してアクセスできるモバイルサービス
- ・SEILルータの自社開発
- ・データセンターサービス
- ・メールアウトソーシングサービス
- ・ハッキング等から守るセキュリティサービス
- ・災害時用バックアップデータストレージサービス
- ・ネットワークの構築運用
- ・オンライン証券等のECシステムの構築運用
- ・クラウドサービス
- ・FXシステムのASP提供



# ビジネスモデルの戦略的転換

## ISPからトータル・ネットワーク・ソリューション・プロバイダーへ



# ネットワークサービスのビジネスモデル

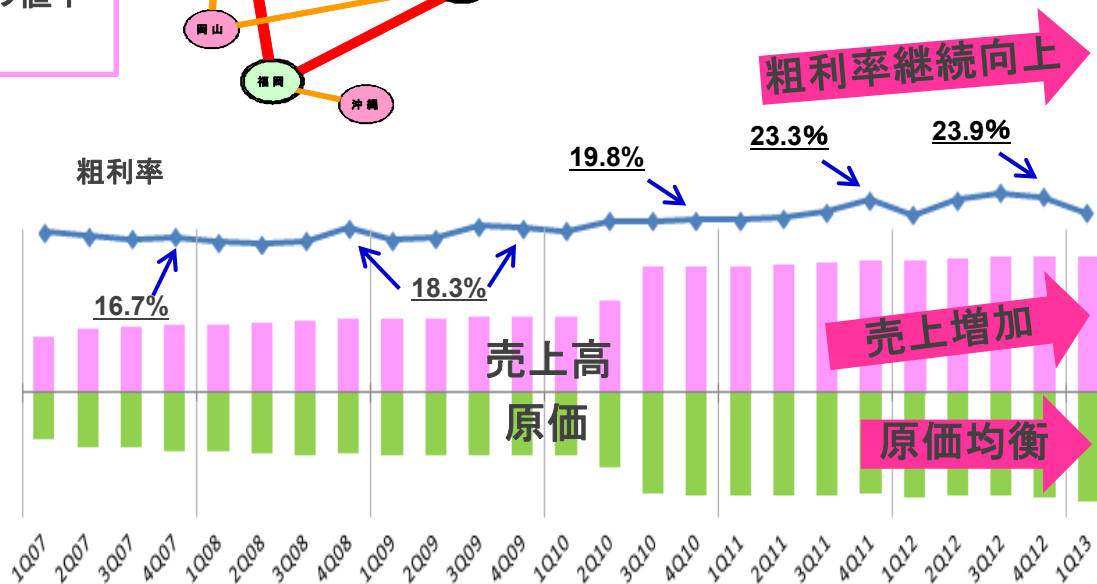
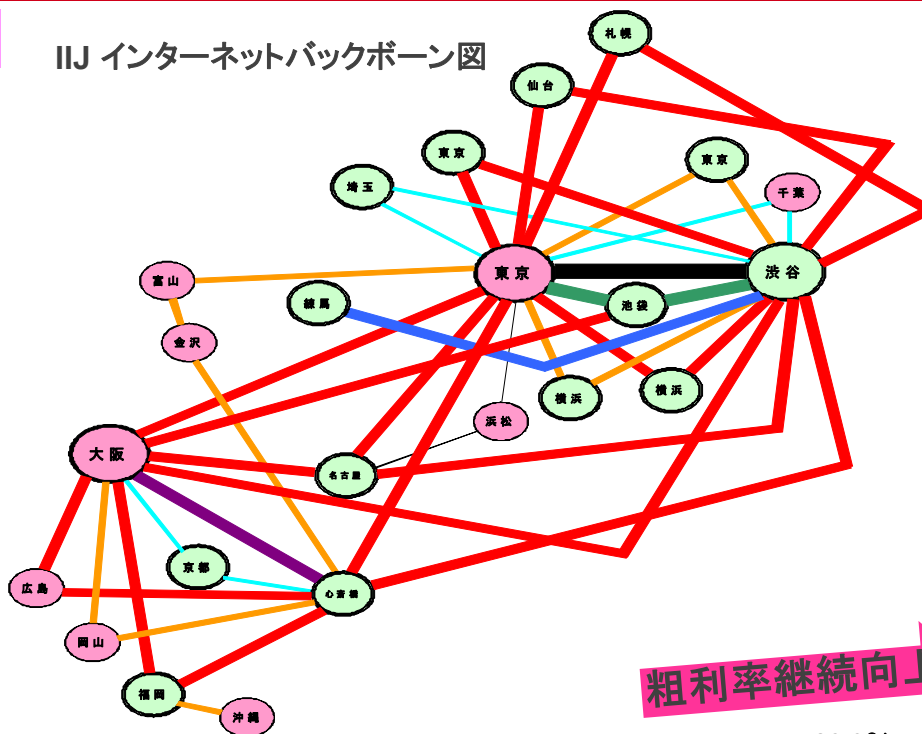
## 売上の特徴

- ・インターネットバックボーンを元に多様な売上（法人向け、個人向け、アウトソース）を積上げ
- ・ストック売上（月額課金）の積上げモデル
- ・顧客：法人等の直接ユーザや個人向けISP事業者、CATV等のネットワークオペレータ
- ・法人向けISPは淘汰され、新規参入は困難
- ・過度のインターネット価格競争はFY2005頃にほぼ収束
- ・増速とアウトソースサービスの契約積上げによる売上増加
- ・インターネットの利用拡大＝トラフィック増加によるスケールメリットビジネス
- ・1Qは年度替りにて、大口顧客より期初特有の値下げ要請で売上減少傾向あり

## 原価の特徴

- ・インターネットバックボーンを継続的に拡大する費用
- ・国内最大級の独立系ISPとして高い機器調達能力
- ・主として、回線調達費、機器、データセンター費用、人件費、外注費
- ・売上には直接連動しない
- ・ネットワークの継続拡充、但しコストはさほど増加しない

IIJ インターネットバックボーン図



# 好循環なクロスセリングモデル

## ワンストップ・ソリューションによる囲い込み強化

- ・専用線型接続サービス
  - IPサービス (64kbps ~ Gbps超)
  - IPv6サービス etc.
- ・ブロードバンド型接続サービス
  - 光回線 (Bフレッツ等)
  - ADSL回線 (フレッツADSL、アッカ等)
- ・モバイル型接続サービス
  - IIJモバイル (LTE/3G/DSDPA)
- ・WANサービス
  - IP-VPNや広域イーサネット
  - 国際WAN、国際インターネットVPNサービス

- ・ネットワーク関連案件
  - 拠点間接続
  - コンテンツ配信プラットフォーム
  - メールシステム構築 etc.
- ・アプリケーション開発型案件
  - オンライン証券システム
  - チケットシステム
  - オンラインショッピングシステム etc

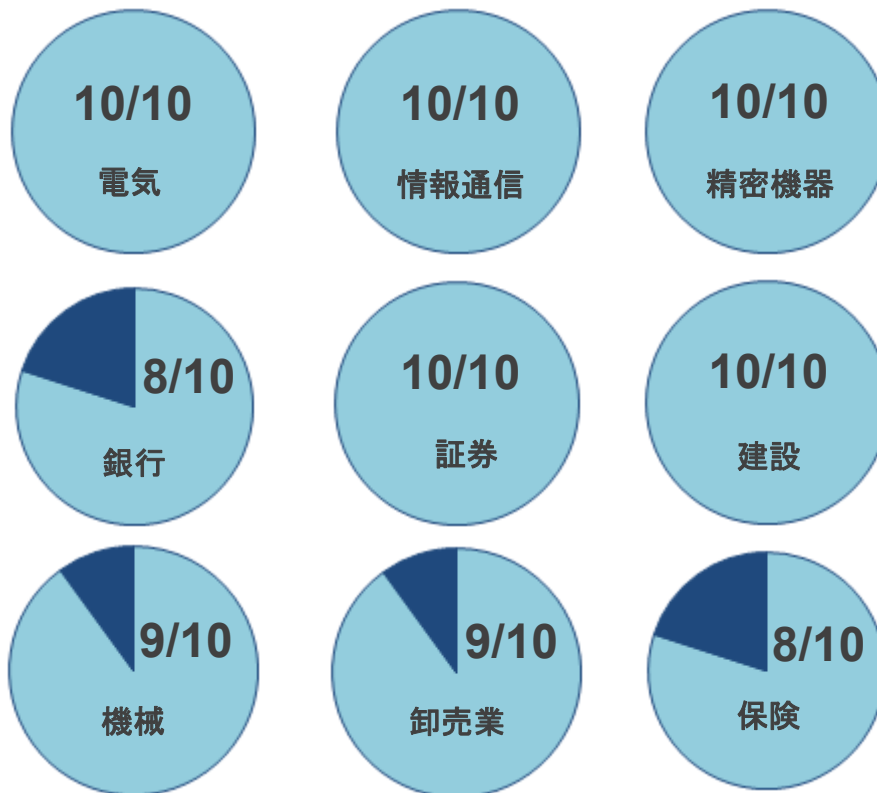


- ・ネットワーク関連
  - マネージドルーターサービス
  - SMF-VPN ソリューション
  - IIJ インターネット-LAN etc.
- ・サーバ関連
  - ウェブホスティング
  - メール系サービス
  - DNS サービス
  - ファイル交換サービス etc.
- ・セキュリティ関連
  - マネージドファイアウォール
  - URLフィルタリング Service
  - DDoSソリューション etc.
- ・データセンター関連
  - ファシリティマネジメント
  - 運用保守 etc.
- ・顧客サポート、運用保守
  - IIJ GIO



# 経営資源としての優良顧客基盤

## 業界上位10社における 浸透率



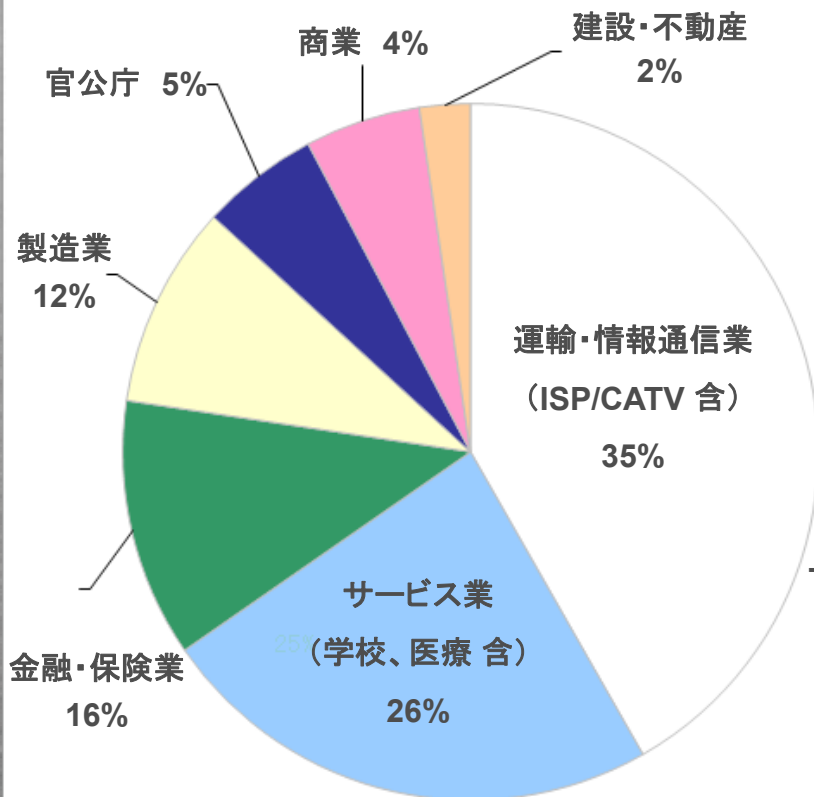
(出典)

東洋経済新報社「会社四季報CD-ROM」、及び日本実業出版社「業界シェア&市場規模」等から当社作成

# 売上高の分布

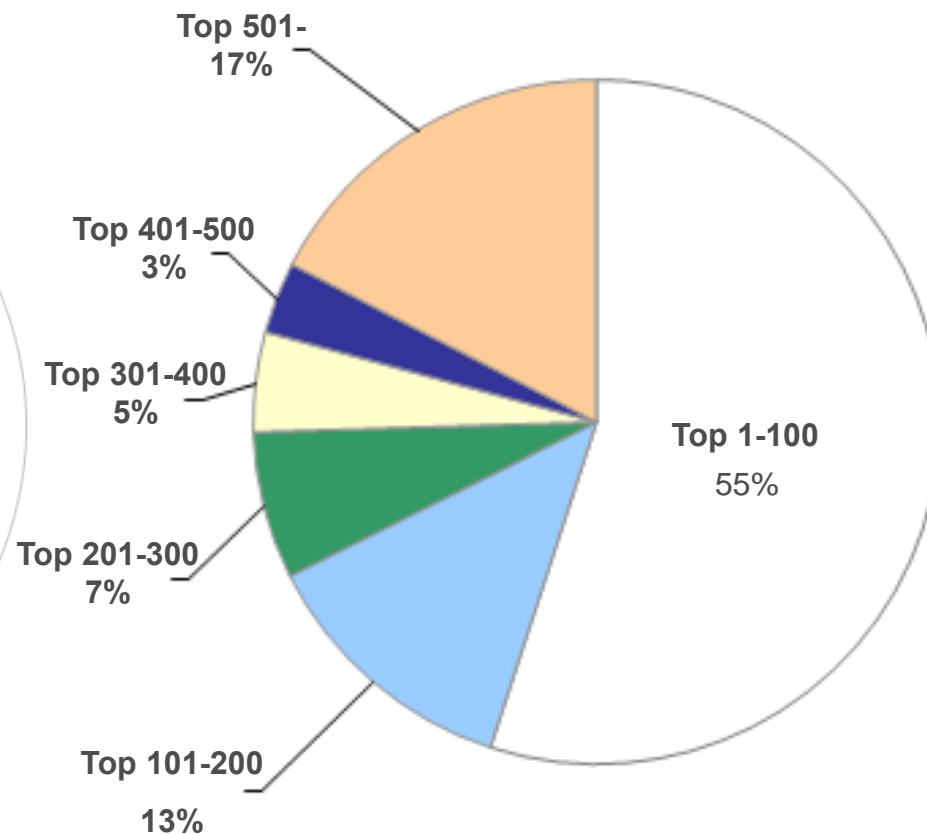
## 業種別売上高分布

特定業種に依存しない顧客構造



## 顧客別売上高分布

特定企業に依存しない顧客構造

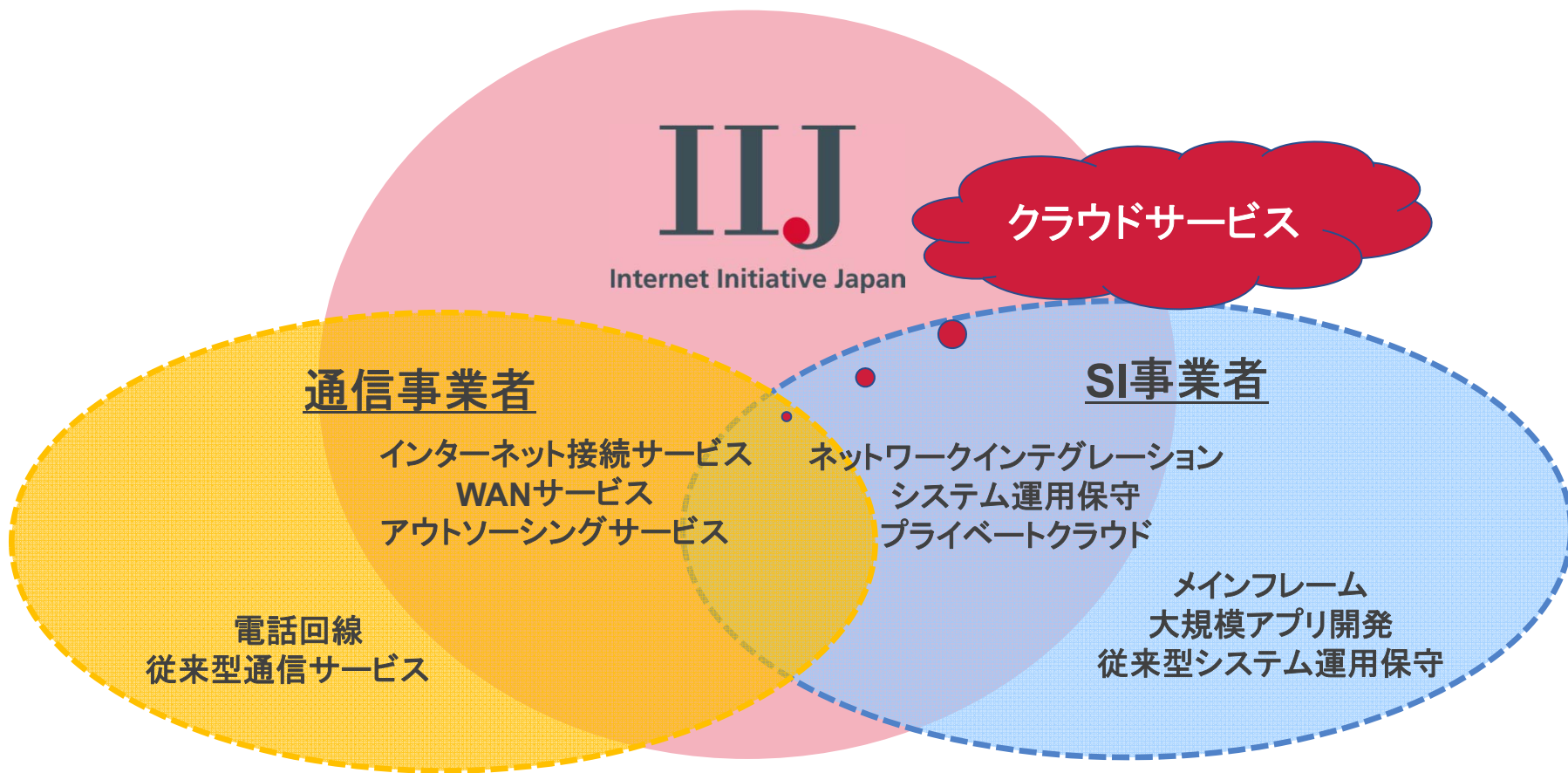


Source: IIJ 2012年度業績

## 事業領域と競合関係

- トップレベルのIPエンジニア集団
- IT市場のニーズに早急に対応できる高い技術力
- 大企業中心のターゲット顧客層
- 情報システム部門に対する高い認知度・ブランド力
- 風通りのよいフラットな職場環境

- 国内最大級バックボーンを構築、運営
- 先進的なサービスを自社開発
- 従来型システム開発ではなく、新しいIT市場をターゲット
- 設立来培ってきたサーバ運用の豊富な実績
- 多くない従業員数



# 継続的な成長戦略

## クロスセリング戦略の推進

高品質・高信頼性サービスの継続提供

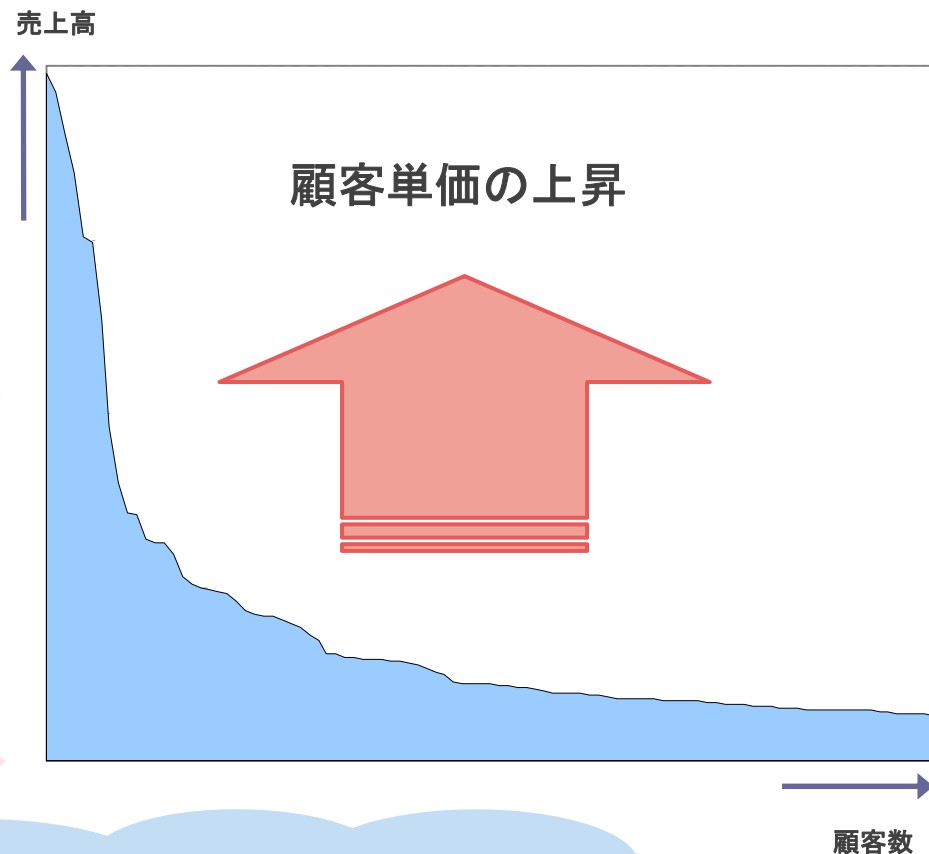
新技術、課題に対応する新サービスの継続開発

顧客基盤のレバレッジ、強化

## 企業ネットワークシステム変革機会の捕捉

ネットワークサービス事業者との強みの最大限発揮

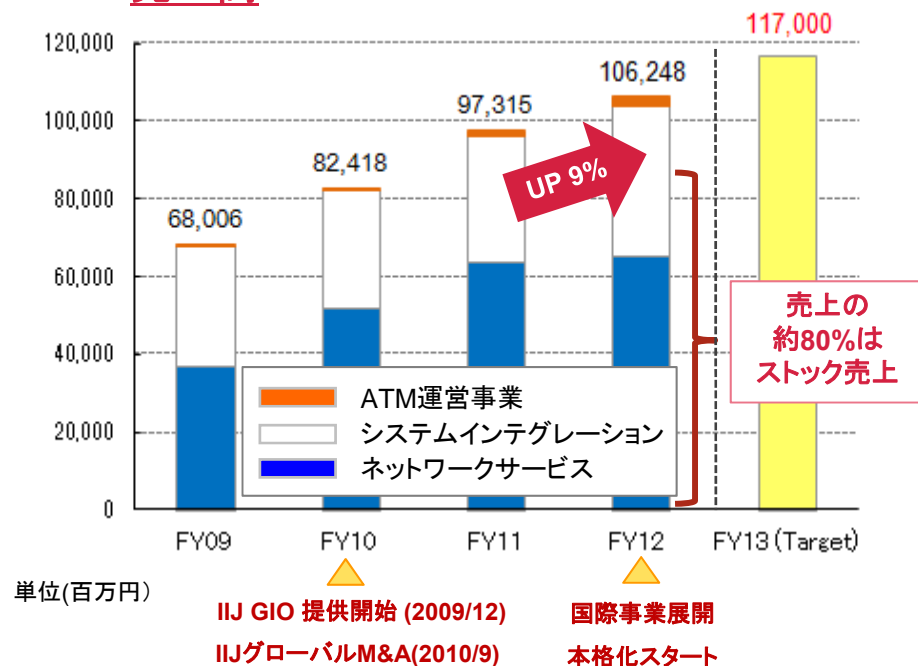
クラウドサービス注力



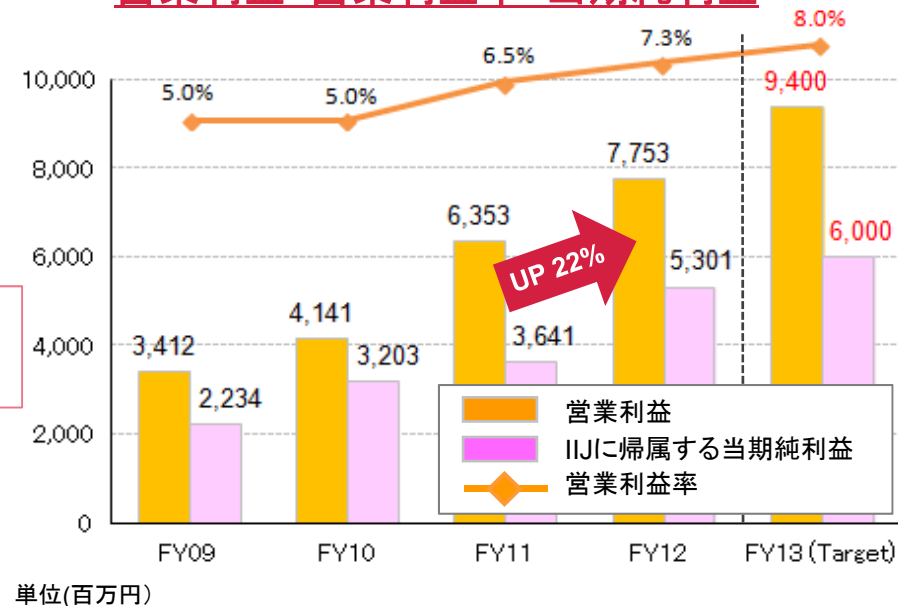
- ・アウトソーシング、クラウドニーズの高まり
- ・中長期的に必要な不可欠なIT投資需要

# 業績推移とFY2013見通し

## 売上高



## 営業利益・営業利益率・当期純利益



- ◆ 売上の約80%はストック型売上で継続伸長
- ◆ スtock売上積上げによるスケールメリット効果で継続増益
- ◆ SI復調による売上規模の更なる拡大
- ◆ ATM設置台数順次増加によるATM運営事業の売上・利益成長
- ◆ 1Qは年度替りで固定的コスト増加、一方ストック売上は期初特有の値下げ要請有り、SI構築一時売上は売上極少時期で、利益伸び鈍化
- ◆ 4Qに向けてSI構築案件の受注状況良好、ストック売上は継続増加見込み

## 今後の主成長領域

### 接続サービス

- 2000年代初頭の激しい価格競争を勝ち抜く、数社のみ健在
- 急速なトラフィック増 → 契約広帯域化 → 更なる売上増加
- インターネットバックボーン上に多数のサービスを複合提供、スケールメリットビジネス
- 法人向けインターネット接続サービスの売上増加  
FY11:前年比5.0%増、FY12:前年比9.0%増、1Q13:前年同期比8.4%増

### クラウドサービス

- 急速に立ち上がり中のクラウドマーケット、企業社内システムのクラウド化進行中
- 従来型のシステム開発からネットワークアウトソーシングへのシフト加速
- クラウド市場をリード中、約1,050社のお客様を獲得
- 売上推移: FY10 約6億円 → FY11 約31億円 → FY12 約62億円 FY13 (計画) 100億円超

### アウトソーシングサービス

- セキュリティサービスやデータセンター関連サービス等への需要は継続して顕著
- 日々進化するインターネット脅威に対抗するサービスの継続開発
- 1Q13売上:前年同期比9.0%増

### 国際事業

- 海外展開を加速する日本企業のサポートのため事業展開
- 米国にて日本の大手SNS業者向けにサーバプラットフォームを構築
- 米国・中国にてクラウド立ち上げ中、顧客需要に応じたさらなる海外クラウド展開の検討・企画中

### ATM運営事業

- ATM利用手数料のビジネスモデル
- FY12にて黒字化、月次積上げ型のストックビジネスとしてATM継続設置に伴い業績拡大の見通し
- 売上推移: FY10 5億円 → FY11 13億円 → FY12 23億円  
利益推移: FY10 △6億円 → FY11 △2億円 → FY12 2億円

### 研究開発

- 中長期的成長にて研究開発には引き続き注力
- ネットワーク仮想化が現在のキーテーマ: SDN基盤開発を遂行中、FY12に第一弾製品リリース

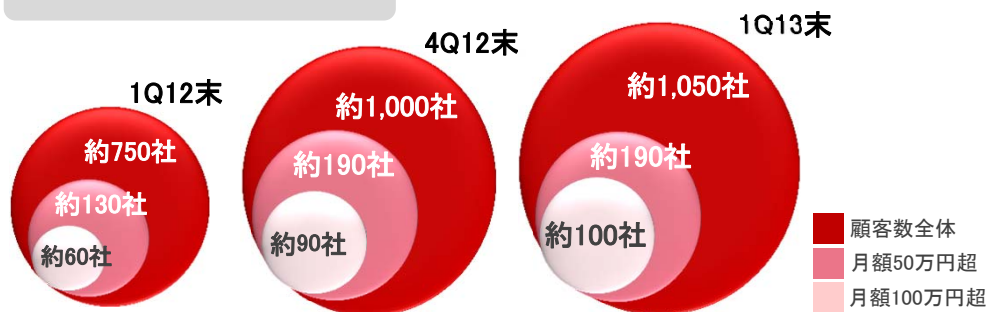
# 拡大するクラウドサービス



## 売上高・顧客数ともに順調に拡大中

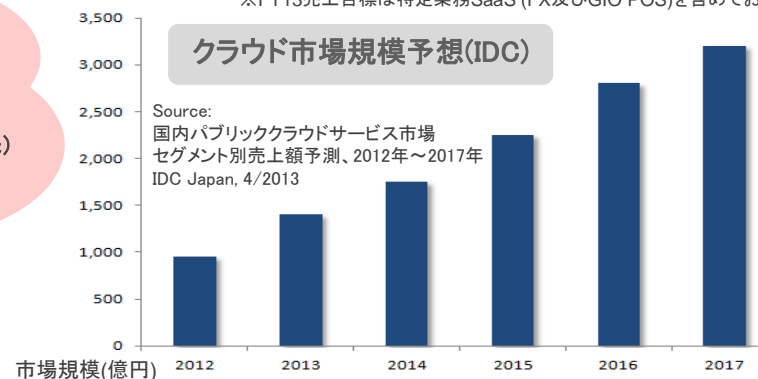
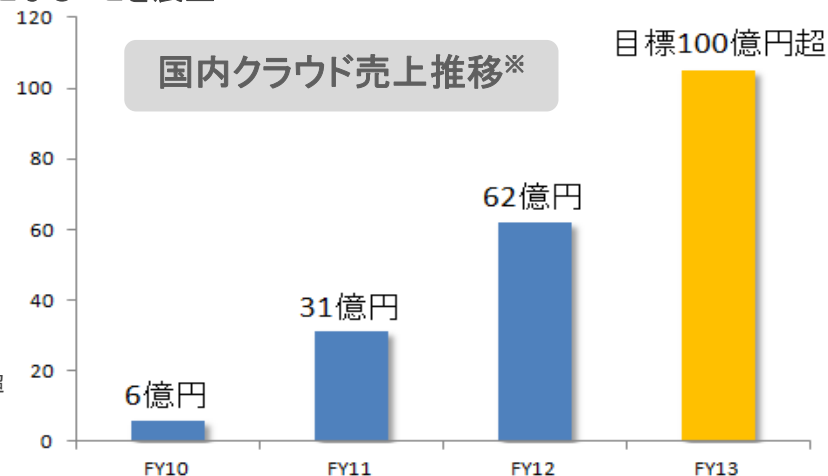
- 2009年12月よりクラウドサービス「IIJ GIO(ジオ)」提供開始
- サーバ、ストレージ、ネットワーク、データセンター等のインフラ基盤(プラットフォーム)をクラウドサービスとして提供
- 顧客基盤をレバレッジし、優良法人企業の社内システムのクラウド化を推進、高信頼性のシステム安定運用に強み
- 拡張性高くスケールメリット享受するパブリッククラウドサービスに注力
  - 国内パブリッククラウド市場で2年連続ナンバーワンシェアとの評価(富士キメラ総研2012年7月及び2013年8月レポート)
- 顧客数の順調な拡大 1Q13末顧客数:約1,050社(1Q12末比 +約300社)
- 今後5年内程度(企業のシステム更新一巡)で非常に大きな事業規模となることを展望

### 大口利用顧客の伸張



### 多くの大手法人での IIJ GIO 導入事例増加中

SBIホールディングス(株)	(株)NTTドコモ	国際航業ホールディングス(株)	埼玉県庁
清水建設(株)	昭和大学	(株)損害保険ジャパン	住友林業情報システム(株)
大和ハウス工業(株)	(株)タカラトミー	(株)東京証券取引所	東北電力(株)
独立行政法人 造幣局	日本生命保険相互会社	日本大学	野村證券(株)
ブジョー・シトロエン・ジャポン(株)	文部科学省	(株)リコー	.....その他多数

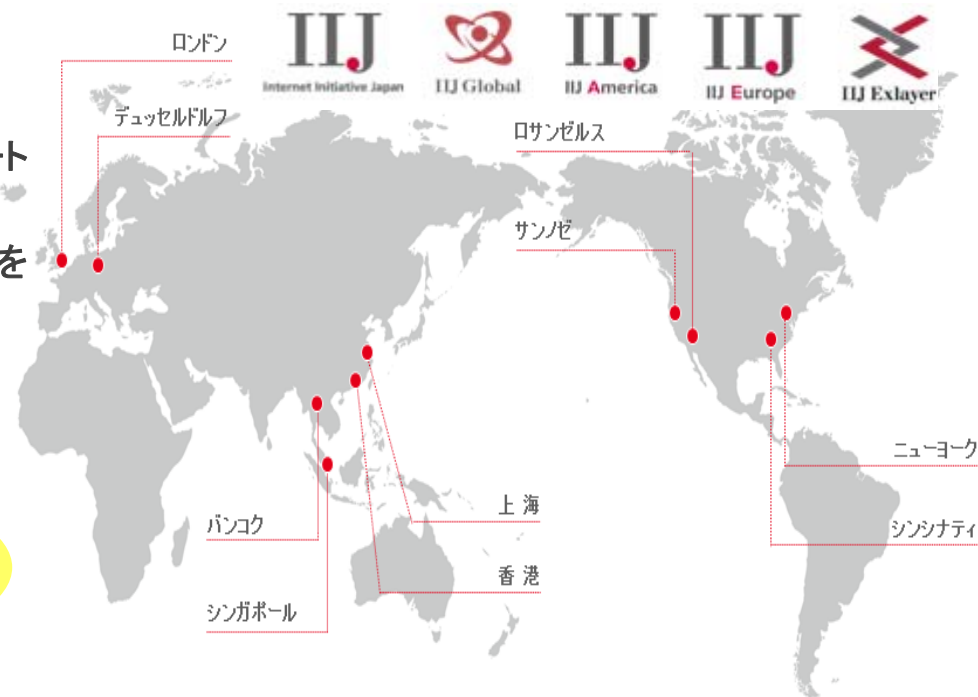


# 国際事業の進捗

日本企業のグローバル化に伴う、海外でのネットワークサービスとサーバ構築運用の需要拡大に対応

- ◆ 1996年より米国にてバックボーンネットワーク運営、在米日系企業向けにネットワークサービス提供中
- ◆ クラウドサービスを米国、欧州、中国にて展開、需要増に応じサーバ設備継続拡充中
- ◆ 米国にて国内大口のSNSゲーム顧客のプライベートクラウド構築、運用中
- ◆ 海外各国でのSI事業に強みのあるIIJエクスレイヤを2012年4月に子会社化、協働にて海外事業の展開加速を展望
- ◆ IIJグローバルにて上海とバンコクに現地法人設立

## IIJグループ海外拠点



### <提供中の国際サービス>

- 米国インターネット接続サービス
- 米国、欧州、中国でのクラウドサービス
- 国際WAN、国際インターネットVPNサービス
- 海外でのサーバ構築・運用、SI
- マルチリンガル(日・英・中)のヘルプデスク

- FY12 売上高: 約36億円、想定を上回り着地
- 海外大口サーバ構築案件の継続獲得
- 顧客需要に応じた更なる海外クラウド展開の検討・企画



## 2013年3月期及び2014年3月期第1四半期 連結累計期間 実績サマリー

(単位: 億円)

	売上高比	売上高比	前期比 増減	売上高比	前年同期比 増減
	FY2012 (12/4~13/3)	FY2011 (11/4~12/3)		1Q13 (13/4~13/6)	
営業収益 (売上高)	<b>1,062.5</b>	<b>973.1</b>	<b>+9.2%</b>	<b>264.4</b>	<b>+6.4%</b>
売上原価	79.4% <b>843.9</b>	79.5% <b>773.3</b>	<b>+9.1%</b>	81.0% <b>214.1</b>	<b>+6.9%</b>
売上総利益	20.6% <b>218.5</b>	20.5% <b>199.9</b>	<b>+9.3%</b>	19.0% <b>50.3</b>	<b>+4.4%</b>
販売管理費等	13.3% <b>141.0</b>	14.0% <b>136.4</b>	<b>+3.4%</b>	14.1% <b>37.2</b>	<b>+8.1%</b>
営業利益	7.3% <b>77.5</b>	6.5% <b>63.5</b>	<b>+22.0%</b>	4.9% <b>13.1</b>	<b>△5.0%</b>
税引前 当期純利益	7.3% <b>77.6</b>	6.1% <b>59.8</b>	<b>+29.8%</b>	5.4% <b>14.3</b>	<b>+4.2%</b>
当社株主に帰属する 当期純利益	5.0% <b>53.0</b>	3.7% <b>36.4</b>	<b>+45.6%</b>	3.6% <b>9.5</b>	<b>+6.4%</b>

## 2014年3月期連結業績見通し（2013/5/15発表）

（単位：億円）

	FY2013 見通し (13/4~14/3)	FY2012 実績 (12/4~13/3)	前期比増減	
営業収益 (売上高)	1,170.0	1,062.5	+107.5	+10.1%
営業利益	94.0	77.5	+16.5	+21.2%
税引前 当期純利益	90.0	77.6	+12.4	+16.0%
当社株主に帰属 する当期純利益	60.0	53.0	+7.0	+13.2%
一株当たり当社 株主に帰属する 当期純利益	※1 135.42円	※2 130.76円	+4.66円	+3.6%
一株当たり 配当金	22.00円 (年間)	※2 18.75円 (年間)	+3.25円	+17.3%

※1 2013年7月に実施した公募増資等にて発行済み株式総数が当該増資前から5,400,000株増加したことにより、2013年5月15日発表の148.01円より変更しております。

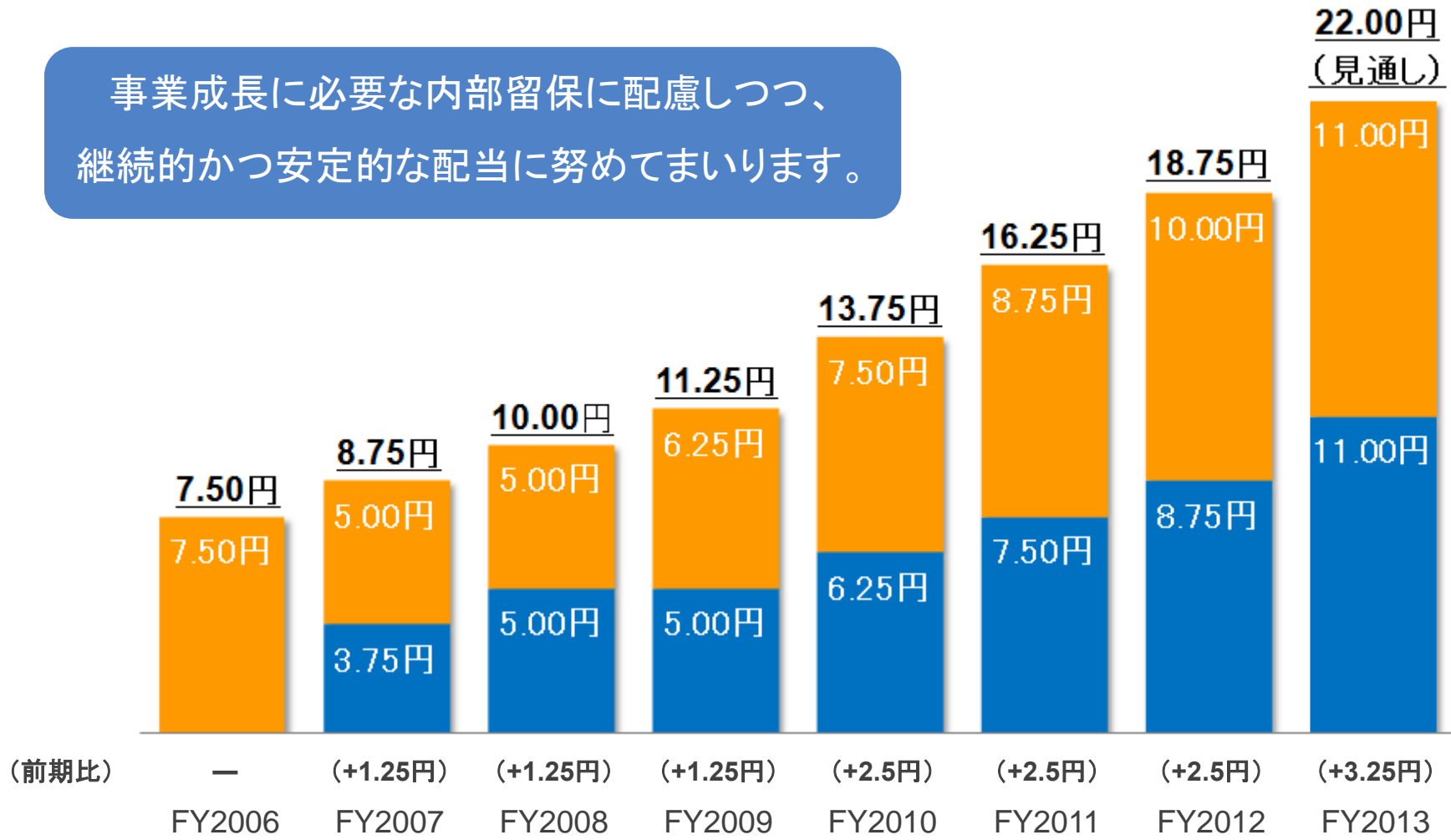
※2 2012年10月1日付で当社普通株式1株を200株に分割しております。  
当該株式分割に伴う影響を加味し遡及修正をした「一株当たり当社株主に帰属する当期純利益」と「一株当たり配当金」を掲載しております。

# 配当推移

2012年10月1日付で当社普通株式1株を200株に分割しております。  
当該株式分割に伴う影響を加味し遡及修正をした「一株当たり配当金」を掲載しております。

■ 中間配当 ■ 期末配当

事業成長に必要な内部留保に配慮しつつ、  
継続的かつ安定的な配当に努めてまいります。



## 事業規模拡大に向けて

### 市場機会

- ◆ITシステム利用拡大、IT技術高度化等によるクラウド等需要の継続拡大
- ◆スマートフォンやタブレット等の普及による情報通信量の増大
- ◆景気回復基調にて企業のシステム投資意欲増進
- ◆案件受注型システムインテグレーターモデルの淘汰

### 経営体制拡充

- ◆CEO、COO体制にて今後の事業成長を加速
- ◆勝社長は取引先リレーション強化を含む国内・国際事業執行を担当、鈴木会長は研究開発・サービス開発等技術を主管
- ◆事業展開加速のための人材積極獲得、リソース確保

### 資金・資本強化

- ◆2013年7月に公募増資実施、約170億円調達
- ◆成長用資金を獲得
  - M&A継続検討
  - クラウド関連設備強化

## 継続的成長と更なる事業規模拡大へ

既存事業の成長加速に加え、相乗効果の高いM&A遂行も展望し、  
更なるスケールメリットを創出すべく、一層の事業規模拡大をめざしてまいります。

ご清聴ありがとうございました。

投資家様向け情報サイトも是非ご覧ください。

<http://www.iij.ad.jp/ir>

決算説明資料や開示資料のほか、  
プレスリリースやFAQ集等の  
コンテンツを充実させております。



## 【ご参考資料】

2014年3月期 第1四半期 連結業績説明会資料  
(2013年8月6日 発表)

I . 2014年3月期 第1四半期 総括

II . 2014年3月期 第1四半期 連結業績

III . ご参考資料

# I. 2014年3月期 第1四半期 総括

## ＜＜ 2014年3月期 第一四半期 連結実績 ＞＞

・営業収益(売上高)	26,441百万円	(前年同期比 6.4%増)
・売上総利益	5,030百万円	(前年同期比 4.4%増)
・営業利益	1,305百万円	(前年同期比 5.0%減)
・税引前四半期純利益	1,431百万円	(前年同期比 4.2%増)
・当社株主に帰属する四半期純利益	954百万円	(前年同期比 6.4%増)

## ＜＜ 事業継続進展、堅調に期初スタート ＞＞

システム インテグレーション	構築積み上げ好調、大口案件多数受注 SI構築好調につきSI運用順次積み上がり	SI構築受注・受注残高: 前年同期比 36.2%増・22.9%増 SI運用売上: 前年同期比 10.3%増
法人向け接続	広帯域需要によりIPサービス売上 前年同期比 9.9%増、下期に向け一層増加と想定	
個人向け接続	イオングループ・ビックカメラグループでのLTE無線サービス販売増、QoQ増収基調定着 IIJmio/LTE 契約純増数: 4Q12 約11,000件 ⇒ 1Q13 約18,700件 1Q13末契約総数 約70,000件	
アウトソーシング	堅調に恒常的売上が積み上げ	アウトソーシング売上: 前年同期比 9.0%増
クラウド事業	法人大口利用の進展に期待、将来年億円規模となろう社内基盤クラウド化案件を徐々に獲得 クラウド売上: 4Q12 約20億円 ⇒ 1Q13 約23億円 (* 特定業務SaaS:FX及びIIJ GIO POS売上をFY13より追加)	
国際事業	英国クラウドの提供開始(2013年8月)、アジア拠点順次立ち上がり	国際売上: 1Q12 約10億円 ⇒ 1Q13 約12億円
人員獲得	積極事業展開にて人員リソース順次拡充	人員数: 4Q12末比 +153名、新卒 136名入社

### ＜ 事業拡大に向け成長加速 ＞

- ▶ 増資にて173億円の成長資金獲得
- ▶ 勝 新社長を迎え会社運営基盤強化

### ＜ 1Q季節要因で営業利益若干減、当初想定通り ＞

- ▶ ネットワークサービス売上は年度替り値下げ要請で4Q12比微増、SI構築売上規模は1Qが最小規模との季節傾向
- ▶ 新年度にて人件費等固定的コスト水準増加

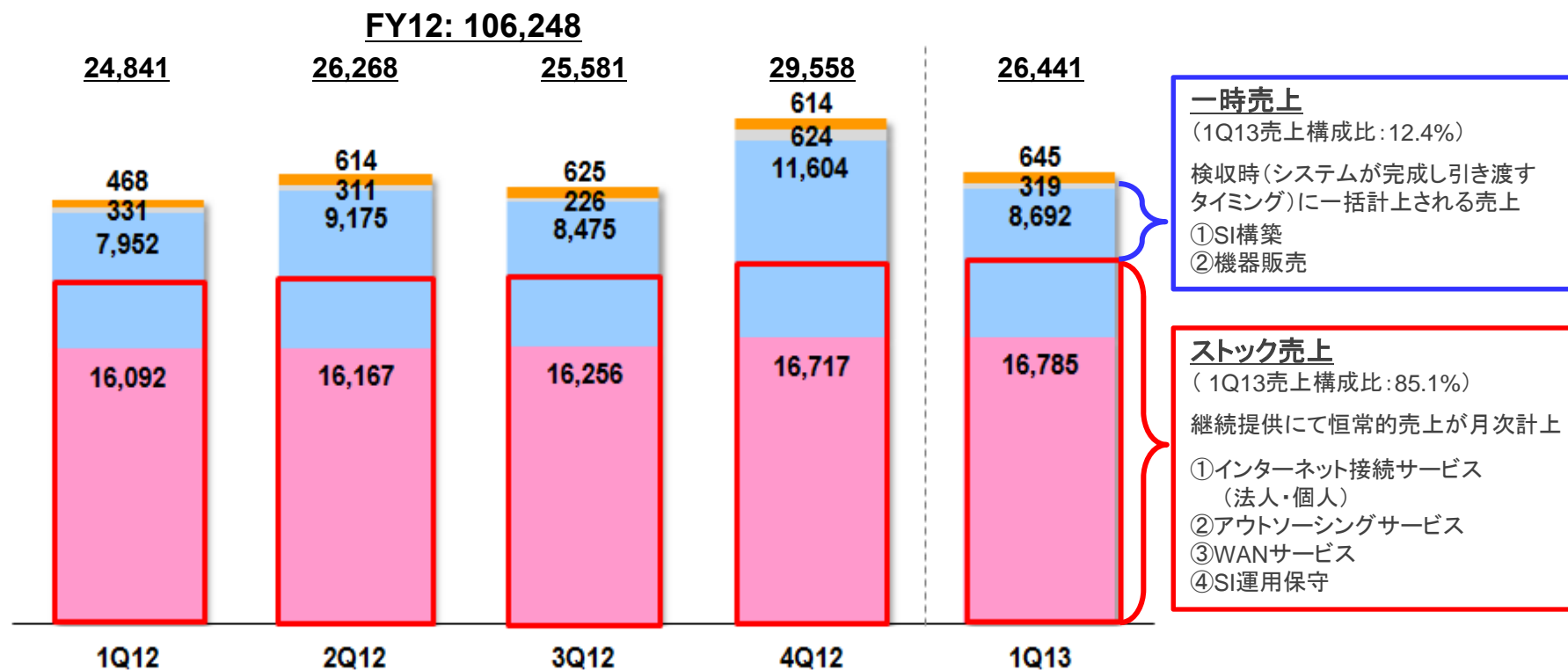
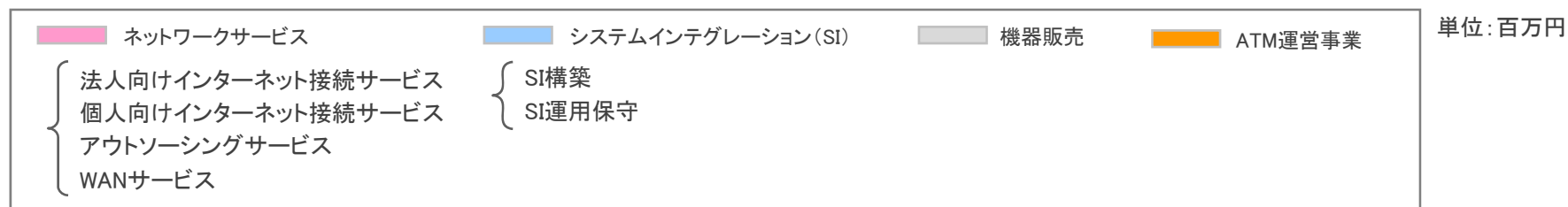
## Ⅱ-1. 2014年3月期 第1四半期 連結実績サマリー

(単位: 億円)

	売上高比 1Q13 (13/4~13/6)	売上高比 1Q12 (12/4~12/6)	前年同期比 増減	売上高比 FY13上期計画 (13/4~13/9)	前年上期比 増減
営業収益 (売上高)	264.4	248.4	+6.4%	545.0	+6.6%
売上原価	81.0% 214.1	80.6% 200.2	+6.9%	—	—
売上総利益	19.0% 50.3	19.4% 48.2	+4.4%	—	—
販売管理費等	14.1% 37.2	13.9% 34.5	+8.1%	—	—
営業利益	4.9% 13.1	5.5% 13.7	△5.0%	6.2% 34.0	+4.2%
税引前 四半期純利益	5.4% 14.3	5.5% 13.7	+4.2%	5.9% 32.0	+0.8%
当社株主に帰属する 四半期純利益	3.6% 9.5	3.6% 9.0	+6.4%	3.7% 20.0	△0.3%

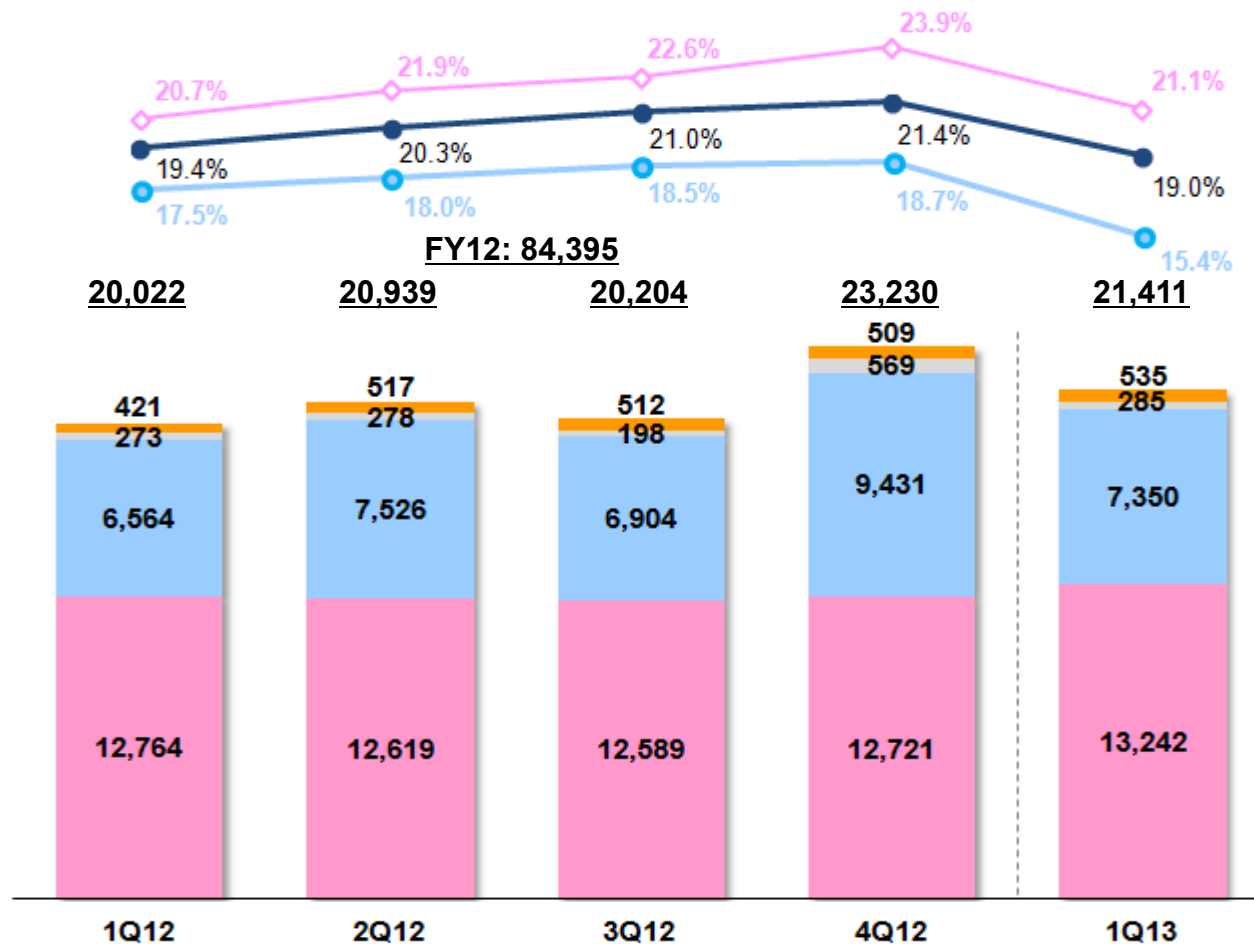
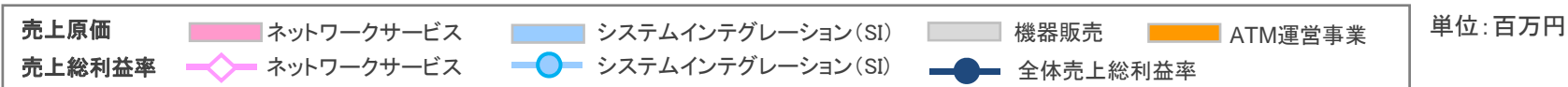


## Ⅱ-2. 営業収益(売上高)の推移



- ◆1Q13 ネットワークサービス: 16,785百万円(1Q12比 +4.3%)
- ◆1Q13 システムインテグレーション: 8,692百万円(1Q12比 +9.3%)
- ◆1Q13 機器販売: 319百万円(1Q12比 △3.6%)
- ◆1Q13 ATM運営事業: 645百万円(1Q12比 +177百万円・+37.9%)
- ◆1Q13 ストック売上: 22,514百万円(1Q12比 +5.8%)
- ◆1Q13 一時売上: 3,283百万円(1Q12比 +6.2%)

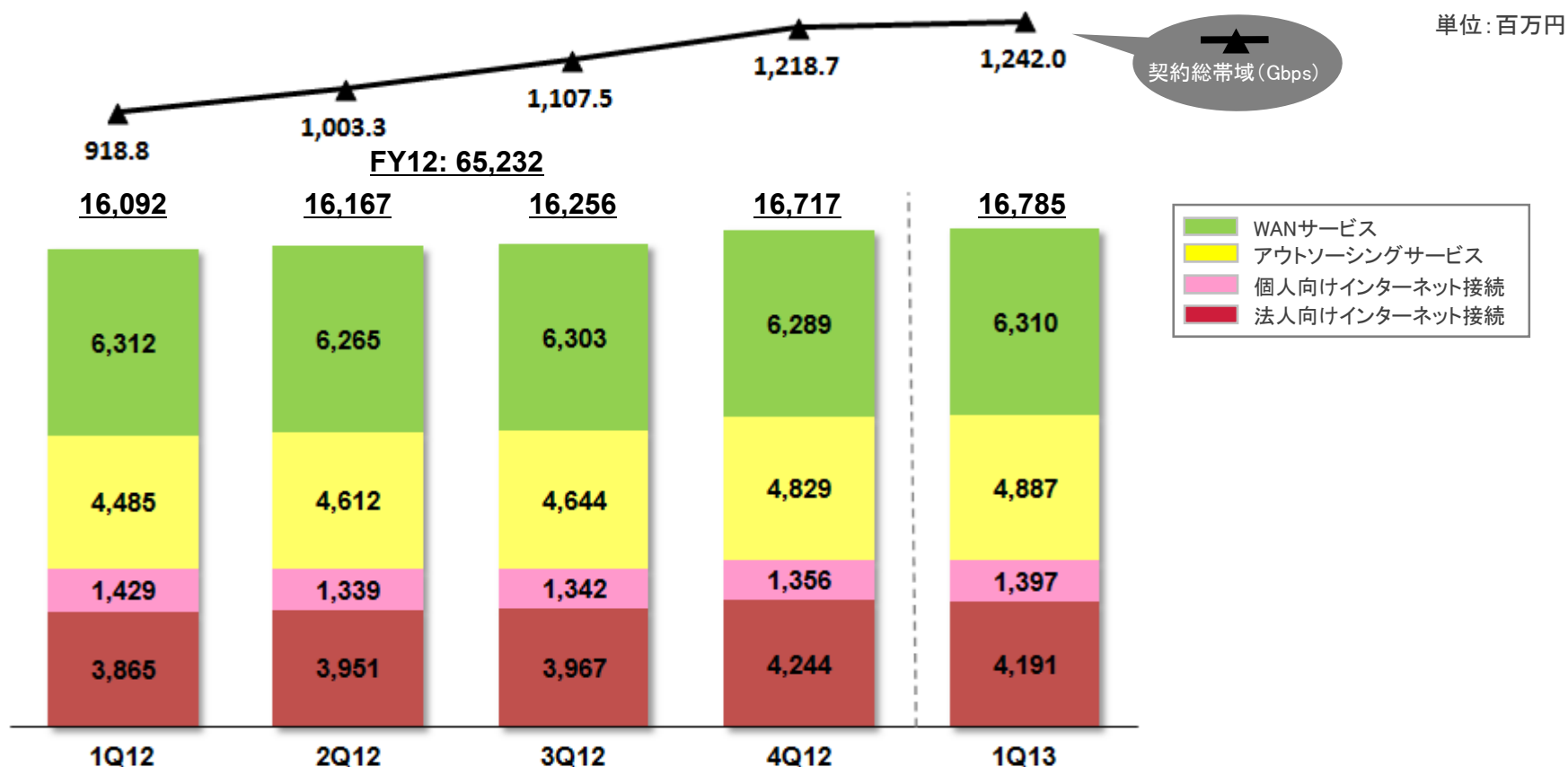
## Ⅱ-3. 売上原価・売上総利益率の推移



1Q13 売上総利益: 5,030百万円(1Q12比 +211百万円・+4.4%)、売上総利益率: 19.0%(1Q12比 △0.4ポイント)  
 ◆1Q13 ネットワークサービス 売上総利益: 3,544百万円(1Q12比 +216百万円・+6.5%)、売上総利益率: 21.1%(1Q12比 +0.4ポイント)  
 ◆1Q13 システムインテグレーション 売上総利益: 1,343百万円(1Q12比 △45百万円・△3.2%)、売上総利益率: 15.4%(1Q12比 △2.1ポイント)  
 ◆1Q13 ATM運営事業 売上総利益: 110百万円(1Q12比 +63百万円)

## Ⅱ-4. ネットワークサービス

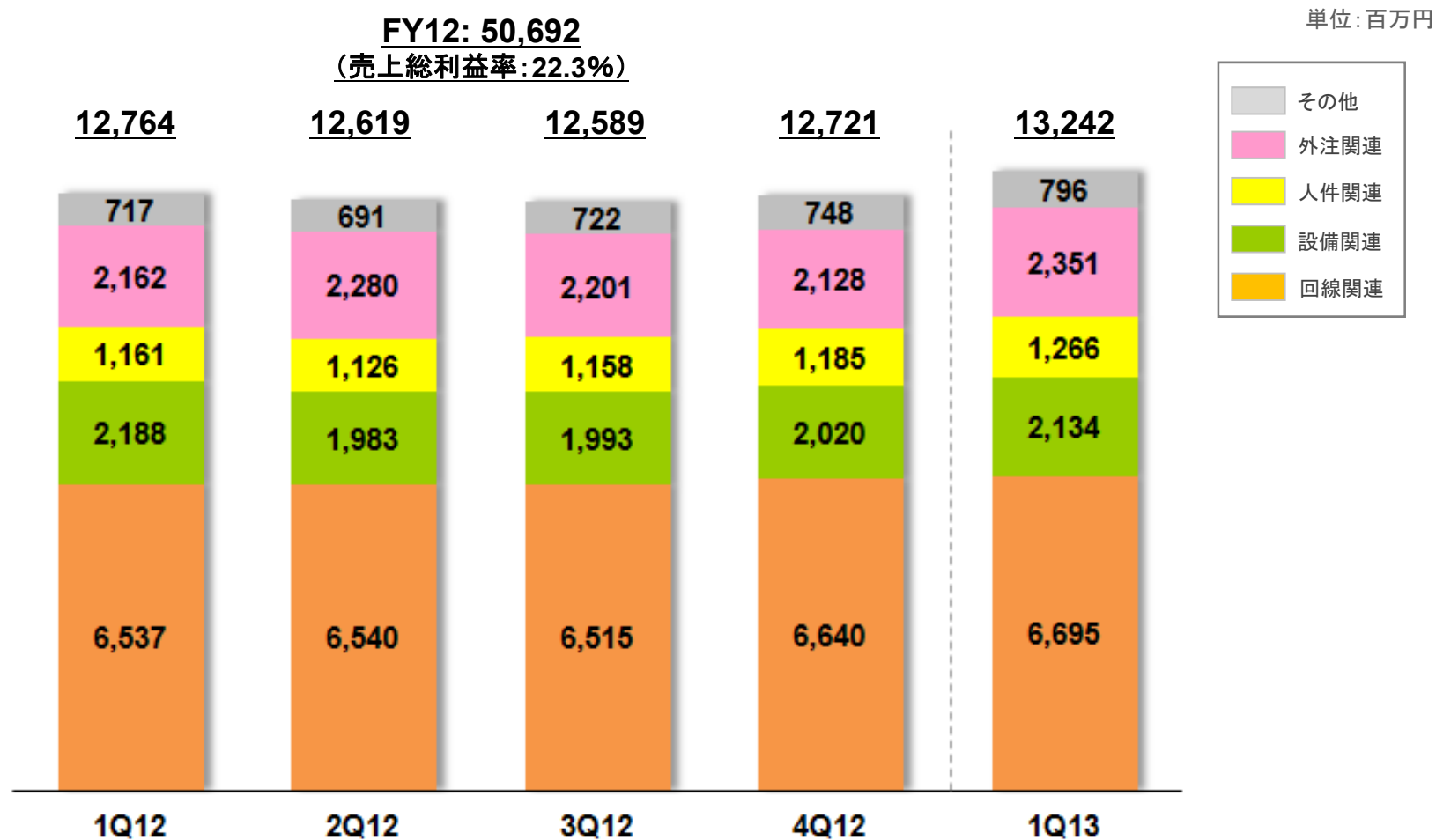
### ① 売上の推移



- ◆1Q13 法人向けインターネット接続サービス: 1Q12比 +326百万円・+8.4%、4Q12比 △53百万円・△1.3%
  - ▶ 期初特有の大口契約一部見直し影響により4Q12比若干の減収、2Q以降回復見込み 1Q13末Gbps超契約件数: 235件(4Q12末: 207件、1Q12末: 142件)
- ◆1Q13 個人向けインターネット接続サービス: 1Q12比 △32百万円・△2.2%、4Q12比 +42百万円・+3.1%
  - ▶ IIJmio/LTEサービス イオングループ、ビックカメラグループ等取り扱いにより販売ペース加速 契約純増数: 約11,000件(4Q12) → 約18,700件 (1Q13)
  - 1Q13末契約総数 約70,000件、光フレッツアクセス回線分のネット売上化による減収影響を吸収、Q毎増収基調が定着
- ◆1Q13 アウトソーシングサービス: 1Q12比 +402百万円・+9.0%、4Q12比 +58百万円・+1.2%
  - ▶ IIJ GIOホスティングパッケージサービス、データセンター関連サービス等にて継続増収
- ◆1Q13 WANサービス: 1Q12比 △3百万円・△0.0%、4Q12比 +21百万円・+0.3%

## Ⅱ-4. ネットワークサービス

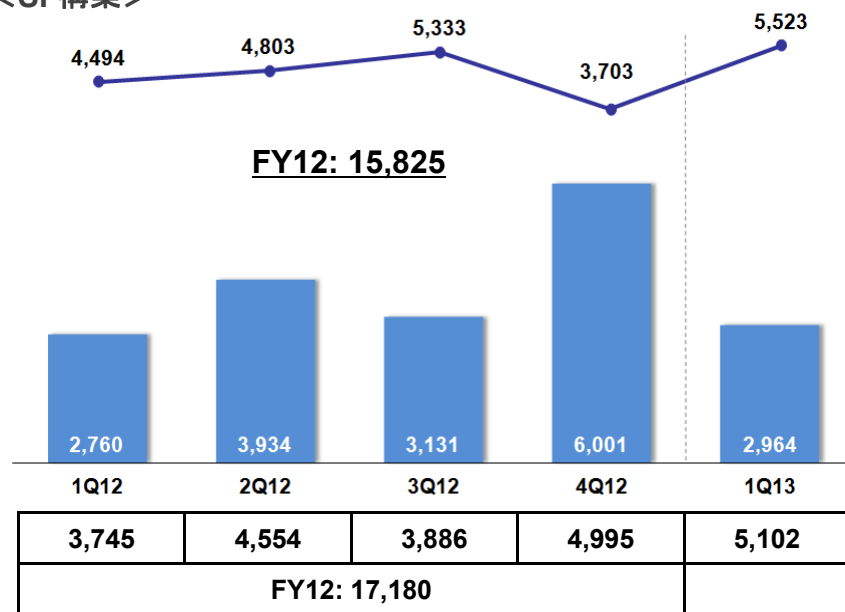
### ② 原価の推移



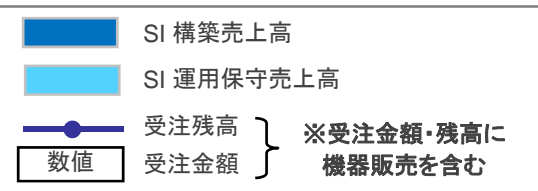
- ◆ 1Q13 ネットワークサービス原価: 1Q12比 +478百万円・+3.7%、4Q12比 +521百万円・+4.1%
  - 売上増加による外注関連費用及び人員増等による人件関連費用の増加
  - ネットワークを継続増強しつつ、回線関連費用等はスケールメリットを享受し安定推移

## Ⅱ-5. システムインテグレーション(SI) ① 売上・受注等の推移

### <SI 構築>



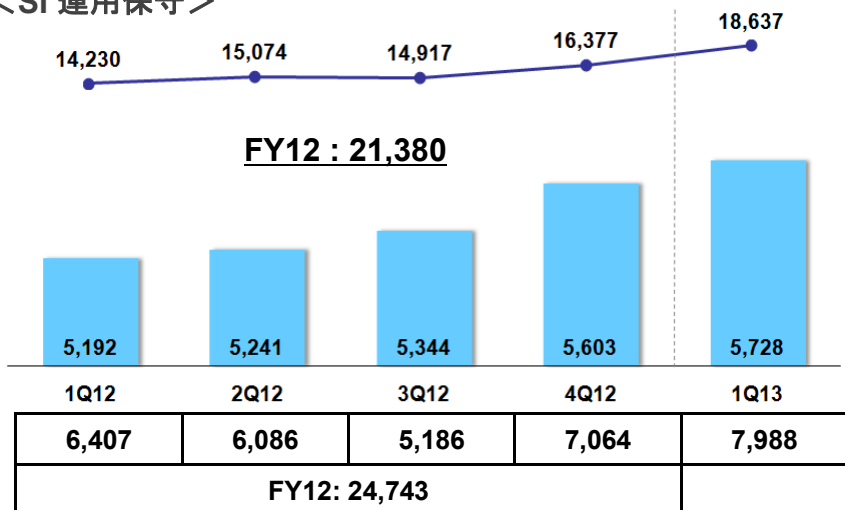
単位: 百万円



### SI 構築等の状況

- ◆1Q13 売上: 1Q12比 +204百万円・+7.4%  
4Q12比 Δ3,037百万円・Δ50.6%
  - ◆1Q13 受注金額: 1Q12比 +1,357百万円・+36.2%  
4Q12比 +107百万円・+2.1%
  - ◆1Q13末受注残高: 1Q12末比 +1,029百万円・+22.9%
- ▶FY12からの企業SI投資意欲回復に伴い、引き続き順調に案件積み上げ中、従来からの中小型規模のネットワークインテグレーション案件に加え、億円超規模案件を獲得  
 【案件例】基盤システム更改、ISP大型メールシステム構築、ECサイト基盤構築、Webシステム更改、大規模ネットワークリプレイス 等

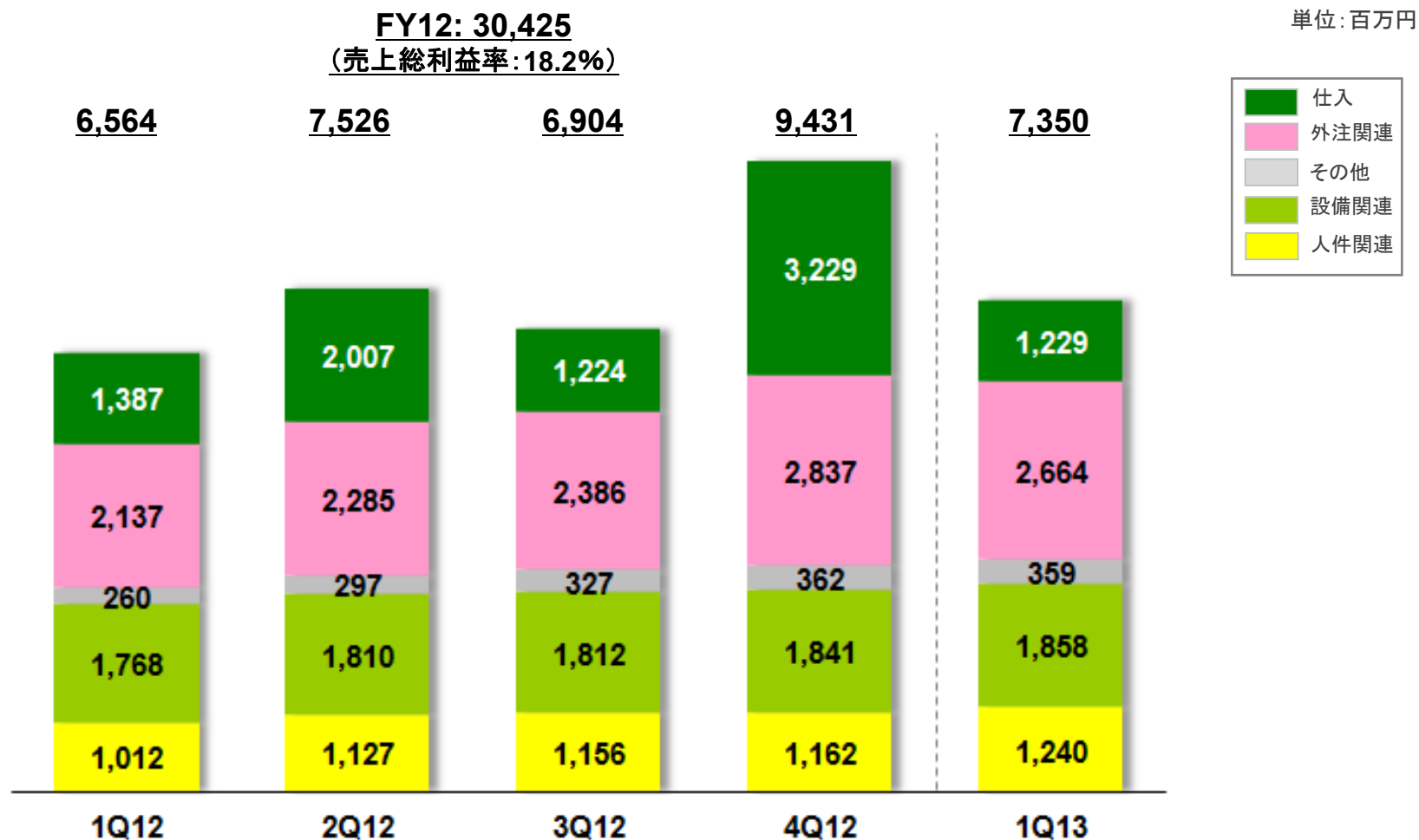
### <SI 運用保守>



### SI 運用保守の状況

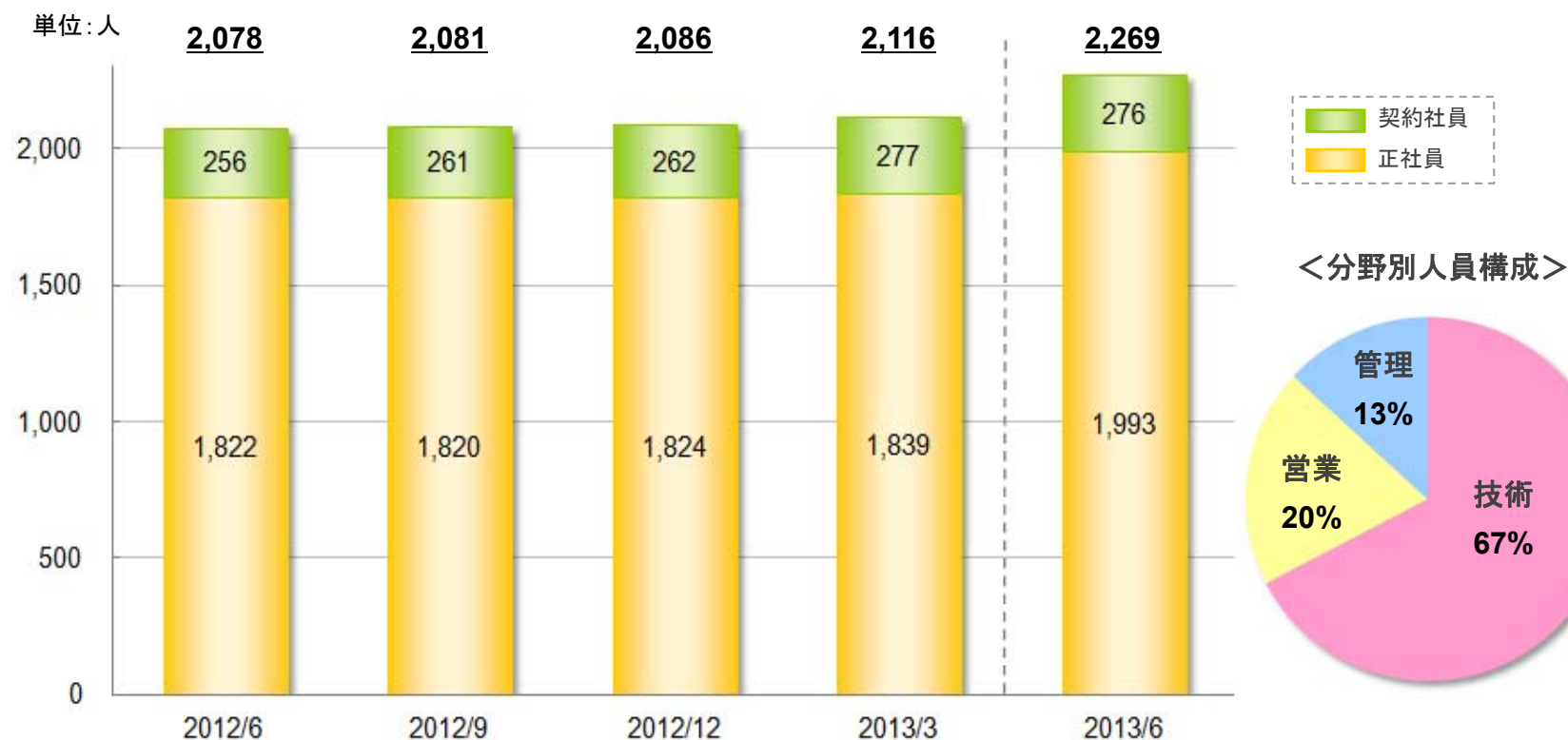
- ◆1Q13 売上: 1Q12比 +537百万円・+10.3%  
4Q12比 +125万円・+2.2%
  - ◆1Q13 受注金額: 1Q12比 +1,581百万円・+24.7%  
4Q12比 +924百万円・+13.1%
  - ◆1Q13末受注残高: 1Q12比 +4,407百万円・+31.0%
- ▶FY12中に検収されたSI構築案件に関連したSI運用売上も順次積み上がり  
 ▶1Q13クラウド売上全体の77%がSI運用保守に計上 (クラウド売上全体の23%がアウトソーシングに計上)

## Ⅱ-5. システムインテグレーション(SI) ② 原価の推移



- ◆ 1Q13 SI原価: 1Q12比 +786百万円・+12.0%、4Q12比 △2,082百万円・△22.1%
  - 1Q13末常駐外注人員数: 683名(1Q12末比 +186名、4Q12末比 +32名)
  - 1Q12比: 案件数増加による外注関連費用増加及び人員増等による人件関連費用増加
  - 4Q12比: SI構築案件の季節的変動による減少にて仕入及び外注関連費用減少
  - 大口案件増加に伴い粗利低下傾向

## Ⅱ-6. 連結従業員数の推移



人件関連費用総額  
(売上高比率)

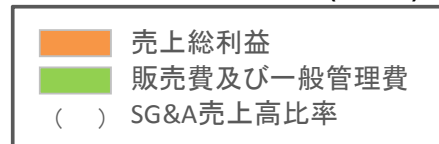
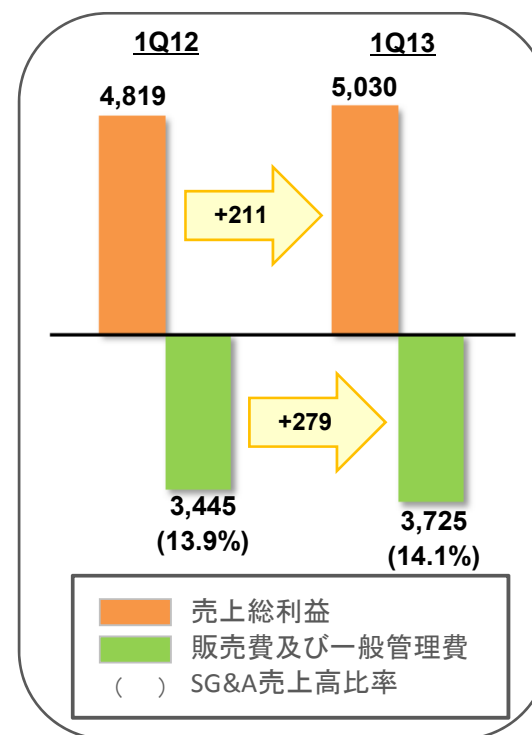
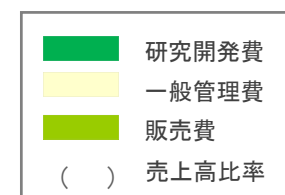
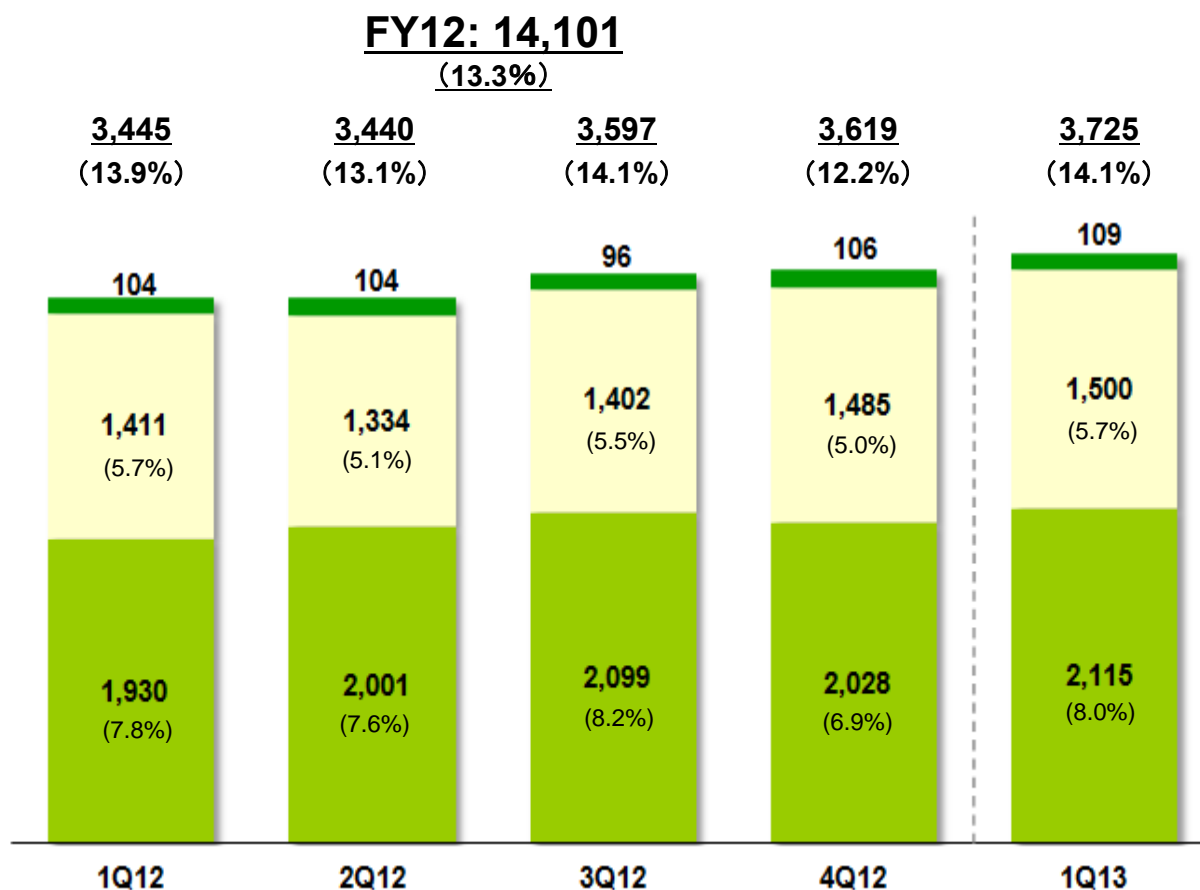
2012/6	3,741 (15.1%)	3,858 (14.7%)	3,902 (15.3%)	3,979 (13.5%)	4,212 (15.9%)
FY12: 15,480 (14.6%)					

単位: 百万円

- ◆1Q13 総人件関連費用: 1Q12比 +471百万円、4Q12比 +233百万円
  - 年次報酬改定及び新入社員等の人員増により増加
- ◆2013年4月入社新卒社員数: 136名(2012年4月: 75名)
- ◆FY13計画は250名強の人員増加にて予算化

## Ⅱ-7. 販売管理費・研究開発費(SG&A)の推移

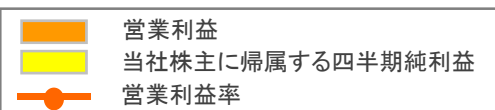
単位: 百万円



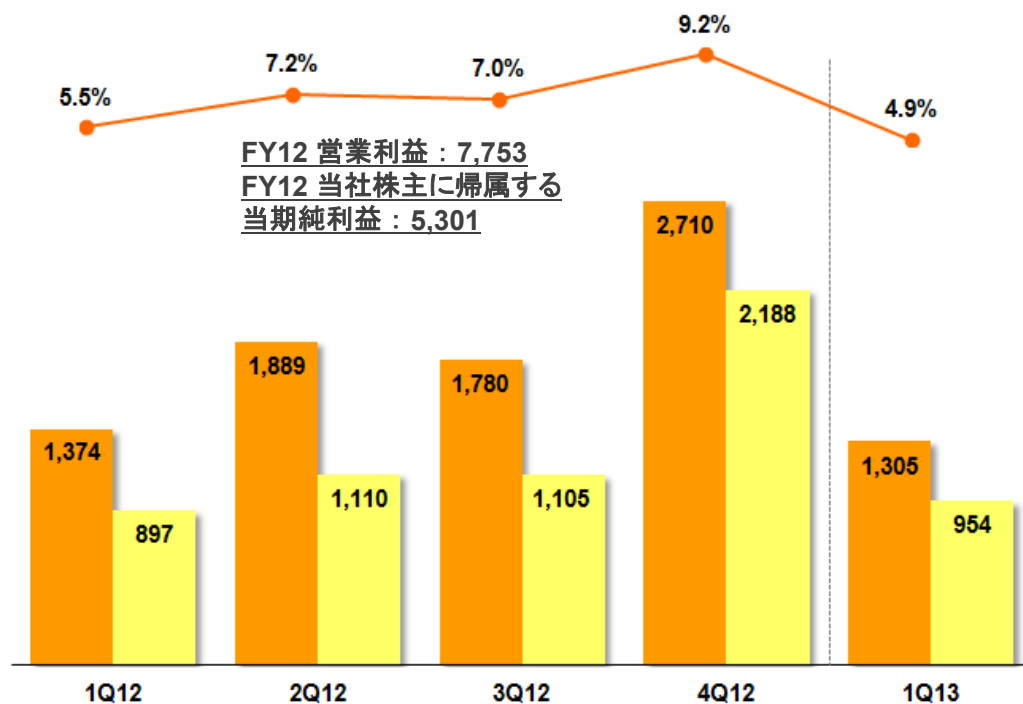
- ◆ 1Q13 SG&A: 1Q12比 +279百万円、4Q12比 +106百万円、売上高比率14.1%と1Q12比0.2ポイント増加
  - 1Q12比: 人件関連費用 +約138百万円、地代家賃等 +約53百万円、販売手数料 +約42百万円



## Ⅱ-8. 営業利益・当期純利益の推移



単位: 百万円



◆1Q13 営業利益: 1,305百万円  
(1Q12比 △69百万円・△5.0%)

▶ATM運営事業セグメント利益

単位: 百万円

1Q12	2Q12	3Q12	4Q12	FY12	1Q13
16	67	81	75	239	81

• 2013年8月6日 現在 設置済ATM台数 652台

◆1Q13 税引前四半期純利益: 1,431百万円  
(1Q12比 +57百万円・+4.2%)

▶支払利息以外の大きな費用項目なし、  
為替差益93百万円計上

◆1Q13 当社株主に帰属する四半期純利益: 954百万円  
(1Q12比 +57百万円・+6.4%)

▶i-revo、インターネットマルチフィードに係る  
持分法投資利益

1Q12	2Q12	3Q12	4Q12	1Q13	項目
363	764	675	1,333	269	法人税・住民税・事業税等
152	△27	28	△679	268	法人税等調整額※
33	50	49	36	65	持分法投資損益
5	△6	△10	△5	△5	非支配持分に帰属する 四半期純損失(△純利益)

※ 法人税等調整額の△は  
法人税・住民税・事業税等のマイナス

## Ⅱ-9. 連結バランスシート(サマリー)の状況

単位:百万円

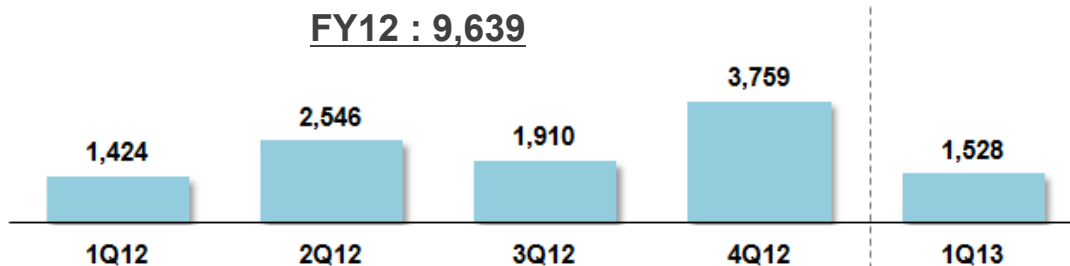
	2013年3月末	2013年6月末	前期末比増減
現金及び現金同等物	12,259	10,276	△ 1,982
売掛金	18,765	15,871	△ 2,894
たな卸資産・前払費用(短期・長期)	5,995	7,741	+1,746
その他投資	3,771	3,749	△ 22
有形固定資産	23,026	23,484	+458
のれん・その他無形固定資産	10,761	10,646	△ 115
資産合計	82,111	79,776	△ 2,335
買掛金・未払金	11,922	9,312	△ 2,610
未払法人税等	1,670	181	△ 1,489
借入金(短期・長期)	11,390	11,390	-
リース債務(短期・長期)	8,876	9,070	+194
負債合計	44,477	41,286	△ 3,191
欠損金	△ 6,399	△ 5,851	+548
その他の包括利益(損失)累計額	264	556	+293
当社株主に帰属する資本合計	37,607	38,458	+851

▶ 当社株主に帰属する資本比率(株主資本比率): 2013年3月末 45.8%、2013年6月末 48.2%

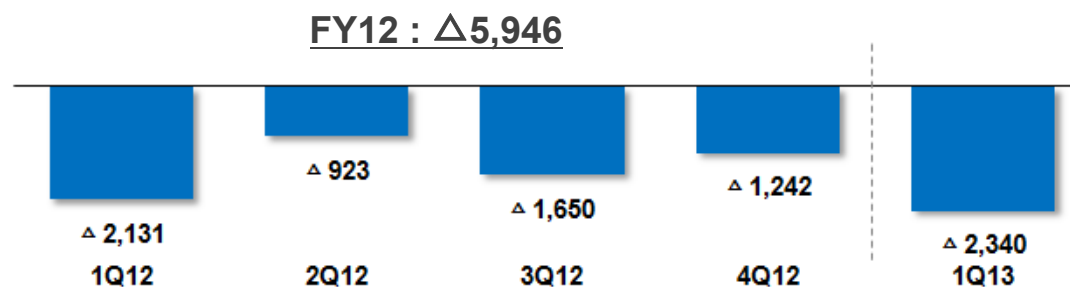
## Ⅱ-10. 連結キャッシュ・フローの状況

単位: 百万円

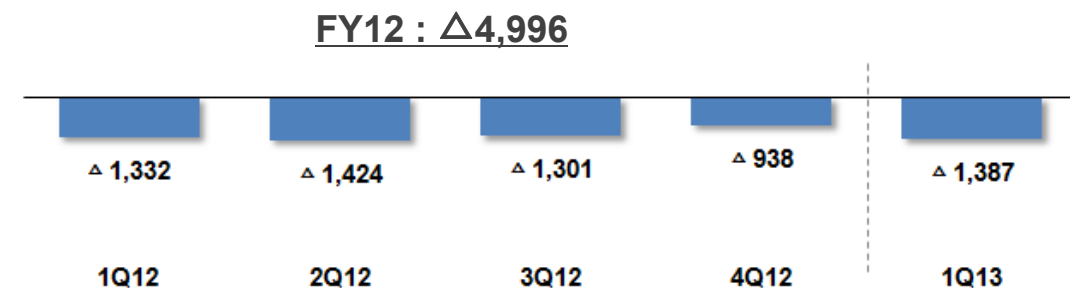
### 営業キャッシュ・フロー



### 投資キャッシュ・フロー



### 財務キャッシュ・フロー



#### 1Q13 営業キャッシュ・フロー

➢ 売掛金の減少	2,922百万円
➢ 減価償却費等	2,071百万円
➢ 買掛金及び未払金減少	△1,962百万円
➢ 未払法人税等の減少	△1,489百万円
	等

#### ◆1Q12比の営業キャッシュ・フロー増減主要因

・ 売掛金の減少の影響	+1,503百万円
・ 買掛金及び未払金の減少の影響	△2,087百万円
・ 法人税等支払い(未払法人税等の減少)の影響	+556百万円

#### 1Q13 投資キャッシュ・フロー

➢ 有形固定資産の取得	△1,719百万円
➢ 敷金保証金の支払	△661百万円
	等

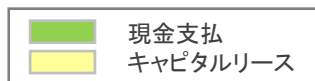
#### 1Q13 財務キャッシュ・フロー

➢ キャピタル・リース債務の元本返済	△981百万円
➢ 配当金支払い	△405百万円
	等

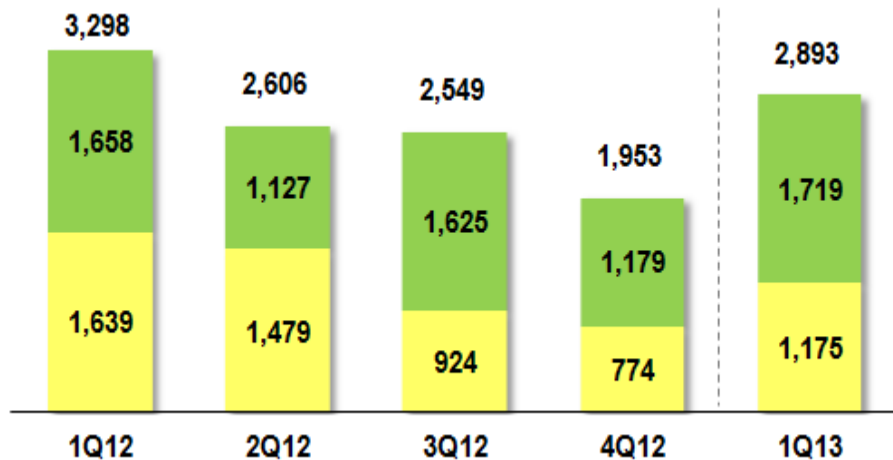
## Ⅱ-11. CAPEX・減価償却・Adjusted EBITDA の状況

単位:百万円

CAPEX(キャピタルリースを含む)



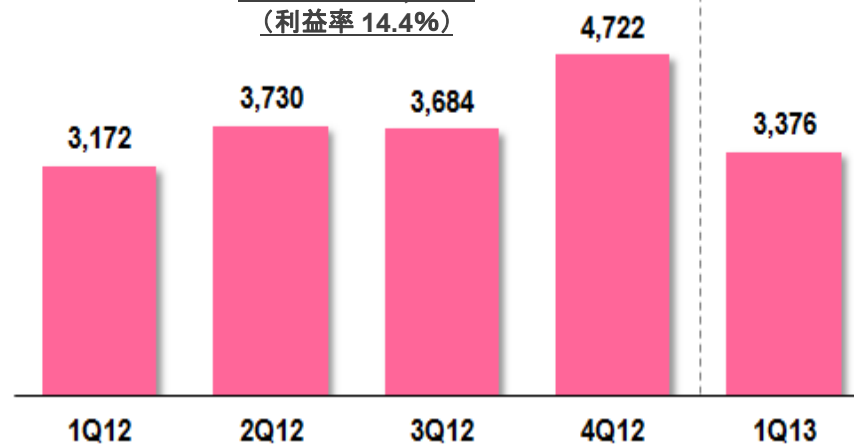
FY12 : 10,405



Adjusted EBITDA (償却前営業利益)

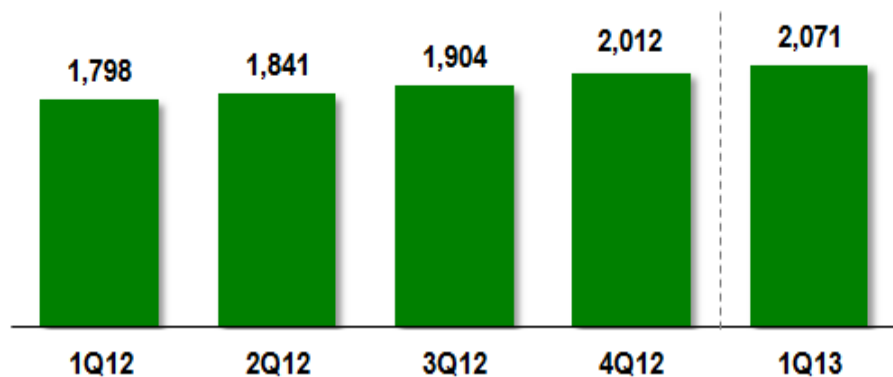
FY12 : 15,308

(利益率 14.4%)



減価償却費等

FY12 : 7,556



# Ⅲ-1. クラウド事業の進展

**IIJ GIO**

## ■クラウド売上

単位:億円	FY11	FY12	FY13
1Q (6月度)	5 (1.8)	12 (4.2)	23 (7.6)
4Q (3月度)	11 (3.7)	20 (6.6)	
通期	31	62	目標100超

※ FY11及びFY12クラウド売上はGIOコンポーネント、GIOホスティング、汎用アプリSaaSを計上  
 ※ クラウド売上の約77%はSI運用売上、約23%はアウトソーシング売上へ計上

### ▶ 一般事業法人売上順次拡大

VWシリーズ等にて月額10百万超を見込める社内基盤利用約20件 順次獲得・運用  
 今後の主成長ドライバーに

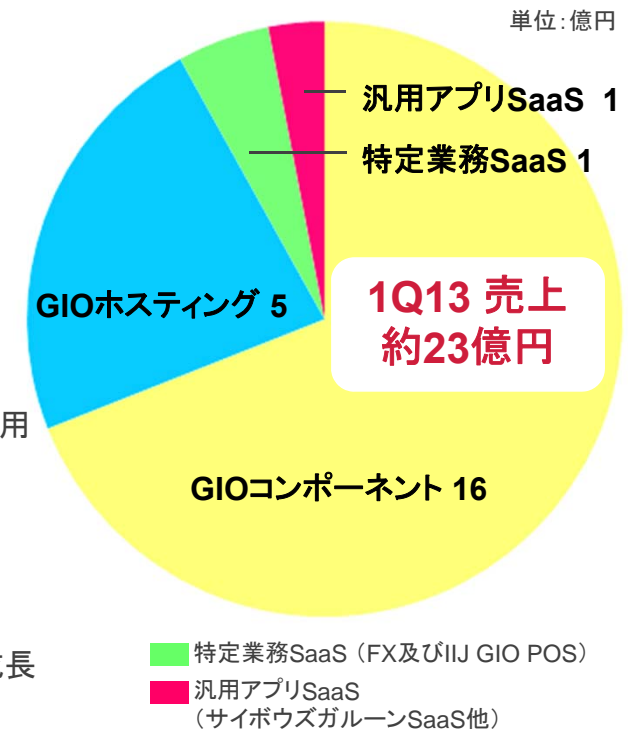
- ERP/SFA/会計等基盤システム、グループ情報系・コミュニケーション基盤、顧客向けサービスシステム、社内インフラの一括クラウド化

### ▶ SNS事業者利用は全体的には伸び鈍化、変動的

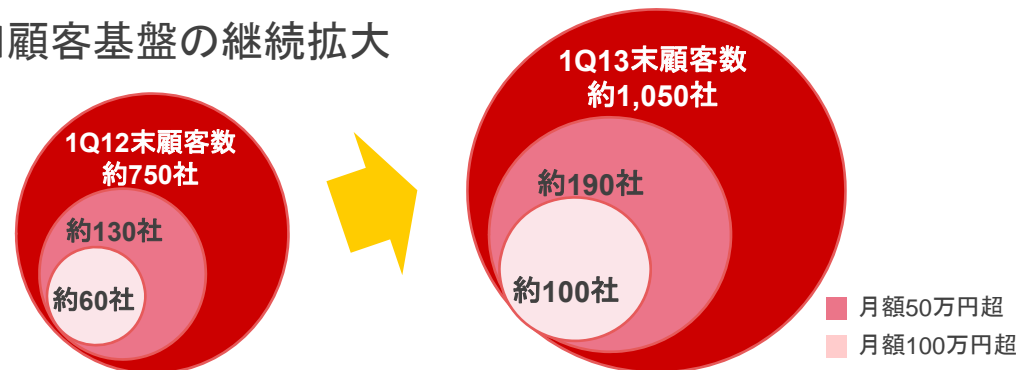
大口SNS利用売上比率: 1Q13 27%、4Q12 32%、4Q11 40%  
 ブランド認知・松江DCP優位性より横展開を推進 月額5百万超規模顧客9社へ成長

### ▶ クラウド周りの付加ソリューション・サービスを順次展開

- IIJ GIOビックデータラボ: 企業向けビックデータ活用支援ソリューション
  - OmniSphere: SDN技術活用のオフィス向け仮想ネットワークソリューション
- 今期より、GIO基盤のサービスを「汎用アプリSaaS」「特定業務SaaS」として区分開示



## ■顧客基盤の継続拡大



- 損益は4Q12比若干改善
- 全体にて6割超の稼働率状況
- 松江DCPテナ全24基導入完了(2013年7月)
- FY13下期に三鷹増強、松江DCP倍規模に拡張建設との計画

## Ⅲ-2. 2014年3月期連結業績見通し（変更なし：2013年5月15日発表）

- ▶ ネットワークサービスにおける期初特有の値下げ要請、システム構築案件の1Q減少傾向、人員増等による固定的費用増加等の季節要因にて例年1Qの売上高及び利益規模は小さくなる傾向、業績は当初想定通り推移
- ▶ 下半期に向けてシステム構築案件の良好な受注状況、ネットワークサービス及びシステム運用保守との恒常的売上の継続増加を鑑み、2013年5月15日発表の2014年3月期連結業績見通しに変更なし

(単位: 億円)

	FY2013 見通し (13/4~14/3)	FY2012 実績 (12/4~13/3)	前期比増減	
営業収益 (売上高)	1,170.0	1,062.5	+107.5	+10.1%
営業利益	94.0	77.5	+16.5	+21.2%
税引前 当期純利益	90.0	77.6	+12.4	+16.0%
当社株主に帰属 する当期純利益	60.0	53.0	+7.0	+13.2%
一株当たり当社 株主に帰属する 当期純利益	※1 135.42円	※2 130.76円	+4.66円	+3.6%
一株当たり 配当金	22.00円 (年間)	※2 18.75円 (年間)	+3.25円	+17.3%

※1  
2013年7月及び8月に実施した公募増資及び第三者割当増資にて発行済み株式総数が当該増資前から5,400,000株増加したことにより、2013年5月15日発表の148.01円より変更しております。

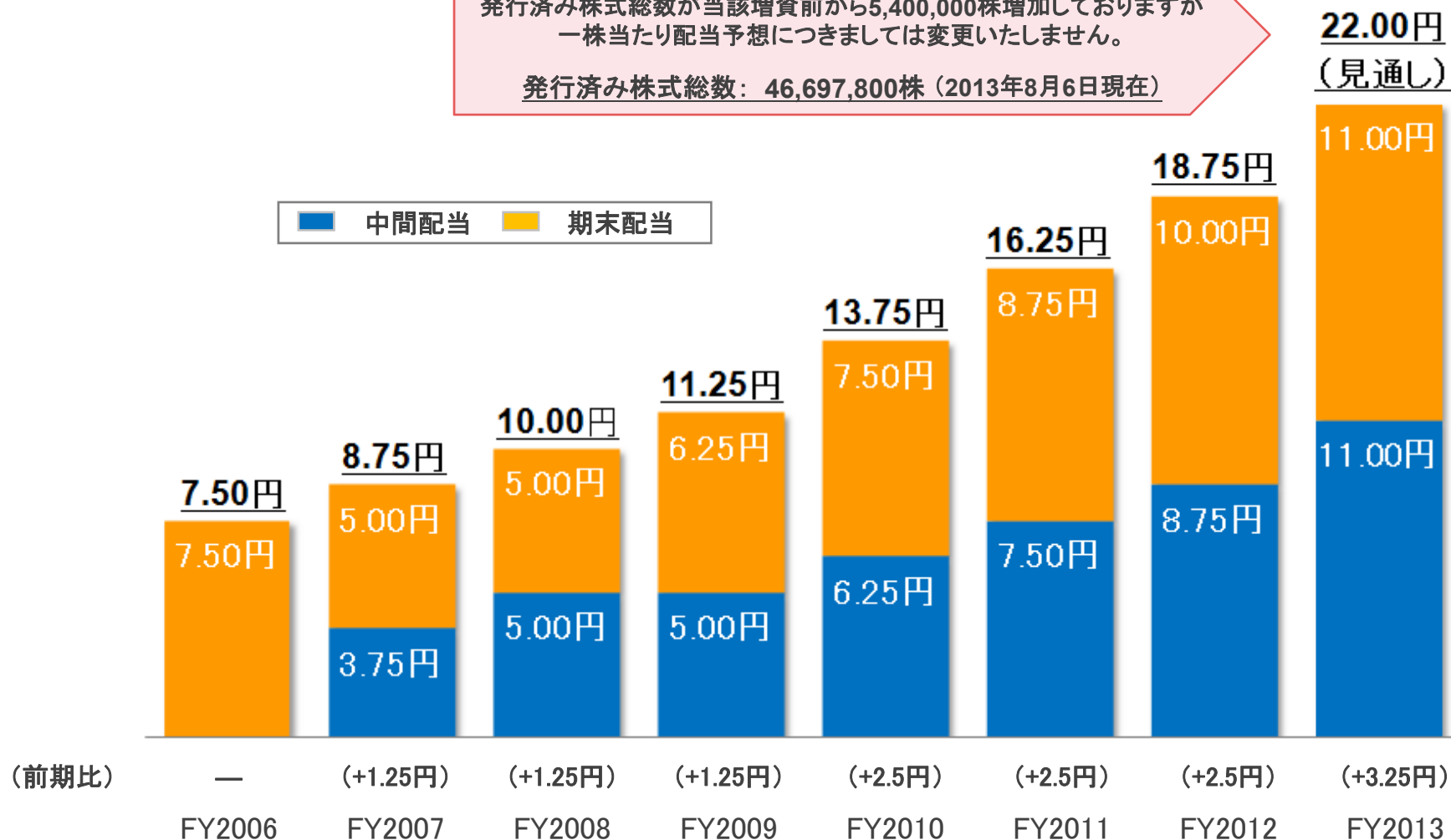
※2  
2012年10月1日付で当社普通株式1株を200株に分割しております。当該株式分割に伴う影響を加味し遡及修正をした「一株当たり当社株主に帰属する当期純利益」と「一株当たり配当金」を掲載しております。

### Ⅲ-3. 配当予想 (変更なし:2013年5月15日発表)

2012年10月1日付で当社普通株式1株を200株に分割しております。  
当該株式分割に伴う影響を加味し遡及修正をした「一株当たり配当金」を掲載しております。

2013年7月及び8月に実施した公募増資及び第三者割当増資により  
発行済み株式総数が当該増資前から5,400,000株増加しておりますが  
一株当たり配当予想につきましては変更いたしません。

発行済み株式総数: 46,697,800株 (2013年8月6日現在)



## ※ 事業等のリスク

本資料には、1995年米国民事訴訟改革法(Private Securities Litigation Reform Act of 1995)の「セーフハーバー」規定に定義する「将来性の見通しに関する記述(forward looking statements)」に該当する情報が記載されています。本資料の記載のうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、将来の見通しに関する記述に該当します。将来の見通しに関する記述は、現在入手可能な情報に基づく当社グループまたは当社の経営陣の仮定及び判断に基づくものであり、既知または未知のリスク及び不確実性が内在しています。また、今後の当社グループまたは当社の事業を取り巻く経営環境の変化、市場の動向、その他様々な要因により、これらの記述または仮定は、将来実現しない可能性があります。現時点において想定しうる当社グループの主なリスク及び不確実性として、

- 1) 国内景気の低迷、経済情勢の変化等による企業のシステム投資及び支出意欲の低下、
- 2) サービスの利用が想定よりも進展しないまたは縮小することによる設備投資規模に対する収益性の悪化、
- 3) サービスの中断等による当社グループのサービスへの信頼性の低下及び事業機会の逸失、
- 4) ネットワーク関連費用、外注費、人件費等、費用規模の想定を超える増加、
- 5) リソース不足に起因する事業規模拡大の機会の逸失、
- 6) 競合他社との競争及び価格競争の進展、
- 7) 投資有価証券、営業権等ののれん資産の価値変動及び実現

等がありますが、これら及びその他のリスク及び不確実性については、当社グループまたは当社が、1934年米国証券取引法(Securities Exchange Act of 1934)に基づき米国証券取引委員会に届出し開示している英文年次報告書(Form 20-F)及びその他の書類をご参照下さい。

## ※ お問い合わせ先

株式会社インターネットイニシアティブ (経営企画部)

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-105 神保町三井ビルディング

TEL: 03-5259-6500 URL: <http://www.iij.ad.jp/ir> E-Mail: [ir@iij.ad.jp](mailto:ir@iij.ad.jp)

